2019年8月1日発行（毎月1回1日発行）（74巻8号）ISSN 0035-7774

労働の科学

Digest of Science of Labour

2019 August
Vol.74, No.8

特集

専門図書館を利用する 図書館のちから(2)

見える司書の肖像／須永和之　21世紀の全く新しい概念の大学図書館構想／鹿田正昭
企業図書館員に求められる役割の変化と企業図書館の可能性／菊池健司
命を守る情報を伝えるため防災・災害関係資料を収集・提供し続ける／矢野陽子
病院図書室　患者さんの診療を支える／和気たか子
働く人々を支え，記録と記憶を未来へつなぐ／谷合佳代子
図書館共同キャンペーン「震災記録を図書館に」で震災資料を収集・公開／小林真理絵

巻頭言

レファレンス協同データベース事業の可能性
飛田由美

連載

共生のための思想と実践 大原總一郎の場合 (一)
兼田麗子

大原記念労働科学研究所

◎百害あって一利なしは、本当か？

本当のたばこの話をしよう

毒なのか薬なのか

片野田耕太［著］（国立がん研究センター）

日本の受動喫煙対策がガラパゴス化していると言われるが、なぜか。たばこを吸う人・吸わない人すべてに伝えたいたばこの「本当」。鳥越俊太郎氏推薦！

●本体1600円＋税

表現の自由とメディアの現在史

統制される言論とジャーナリズムから遠ざかるメディア

田島泰彦［著］

民主党政権成立前後から第2次安倍政権における表現の自由とメディアに関する論点、展開を記録し、その問題点を提示する。

●本体2200円＋税

「地球温暖化」の不都合な真実

マーク・モラノ［著］　渡辺 正［訳］

地球温暖化が原因とされる現象すべてに渡り、膨大な文献と説得力ある構成で疑念を解消する。不都合な真実が明らかになる決定版！

●本体1800円＋税

待機児童対策

保育の充実と女性活躍の両立のために

八田達夫［編著］

待機児童ゼロを目指して事業者や自治体が取り組んできた対策を紹介。無償化政策で深刻化が懸念される待機児童問題の解決策を示す。

●本体2200円＋税

公認心理師試験の問題と解説 2019

こころの科学編集部［編］

（こころの科学 HUMAN MIND SPECIAL ISSUE 2019）

第1回試験問題・全154問を分野別に詳しく解説。第1回試験および第2回試験のブループリント（出題基準）との比較対照を詳細に行い、第2回試験に完全対応！

●本体1800円＋税

こころの科学 206号 特別企画 子育て支援と虐待予防

奥山眞紀子［編］

多機関による妊娠中からの切れ目ない支援が子ども虐待や不適切養育を未然に防ぐ。地域保健や医療等、現場の取り組みを豊富に紹介。

●本体1270円＋税

日本評論社
https://www.nippyo.co.jp/

〒170-8474 東京都豊島区南大塚3-12-4　TEL：03-3987-8621　FAX：03-3987-8590
ご注文は日本評論社サービスセンターへ　TEL：049-274-1780　FAX：049-274-1788

作品パンフのほか詳しいカタログ・試写用DVDでご検討いただけます。

労働安全衛生教育ビデオ（DVD）シリーズ

〈総数約100作品〉

より効果的な教育実践のために

新作品のご案内！

■〔改訂II版〕心肺蘇生法とAEDの実技
～いざという時のために～

■［改訂版］ケーススタディー 有機溶剤による災害を防ぐには
～作業中の急性中毒の防止対策～

話題の最近作

■［改訂II版］自由研削用グラインダの安全
■やさしい化学物質リスクアセスメントのすすめ方
■〔改訂III版〕安全な有機溶剤作業の基礎知識
■〔改訂II版〕特定化学物質による障害予防の基礎知識

■正しい床上操作式クレーンの取り扱い
■〔改訂版〕不安全行動と災害
■〔改訂II版〕感電の基礎知識
■フォークリフト作業の災害事例と安全作業のポイント

●公式HP//www.prcjp.jp　[prcjp.jp]⇒[検索]⇒作品カタログ等をご参照ください。

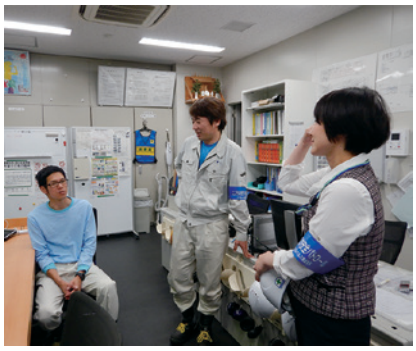
皆様のご愛顧で創業７２年
Public Relations Consultant Co., Ltd.
株式会社 PRC

〒104-0031 東京都中央区京橋3-6-12 正栄ビル　〈試写室 完備〉
TEL 03-3561-5101 FAX 03-3563-1427 E-mail prc.jp@nifty.com

安全・健康最優先の企業風土が個人の幸せと企業価値を高める

https://www.kodoshi.co.jp/

ニッポン高度紙工業株式会社

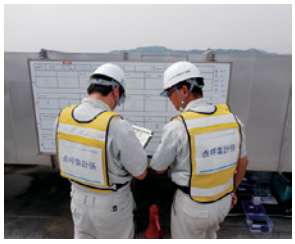


◀メンタルヘルス推進委員による「こころの安全パトロール」

▲健康づくり研修（座学）

◀避難・安否確認訓練（負傷者への応急手当）

▲▼避難・安否確認訓練（点呼集計）



▲家族から募集した安全ポスターを職場に掲示

◀消防訓練（消防団員による放水指導）

▲消防訓練（工場内での放水訓練）

▼消防訓練（消防団員への状況説明）

◀◀家族とのコミュニケーション・イベント

当社は，コンデンサ用セパレータを製造・販売している従業員約430名（高知県・鳥取県・マレーシア）の会社です。当社では，「安全・健康はすべてに優先する」という経営方針のもと，安全・健康・防災等，さまざまな安全衛生活動を行っています。

特に従業員の平均年齢（43歳）やこれからますます高年齢化が進むことを踏まえて，従業員一人一人が自主的に健康づくりを行うためのサポートや事故・ケガなく仕事ができる環境づくりに力を入れています。例えば，健康づくりに関しては，当社の健康診断の有所見の傾向（脂質異常・高血圧の者が多い）等を踏まえて，全従業員を対象に保健師や管理栄養士による「食生活改善」の研修等を実施し，自分の生活習慣の振り返りと「このままの状態が続けばどのような病気につながるのか」等を認識する機会としています。また，運動指導士によるロコモティブシンドローム防止の研修等も行っています。

今後も健康経営優良法人ホワイト500取得企業として，「安全・健康最優先の企業風土が，個人の幸せと企業価値を高める」という考えのもと，全員参加の安全衛生活動を継続していきます。

近森俊二：ニッポン高度紙工業株式会社取締役（常務執行役員）

SIBATA

日々のマスク装着の確認に!

労研式マスクフィッティングテスター MT-05U型

●防じんマスクと顔面との密着性を測定します。
●マスク内外の粒子数を自動計測し、粒子数や漏れ率を数値で表示します。
●USBケーブルでPCと通信させることができます。
●マスク選定のための測定（フィットテスト）や漏れ率の日常管理（フィットチェック）、簡易リアルタイム測定（トレーニング）が可能です。
●試験ガイドによる測定（マスク非破壊）とチューブジョイントセットを使用した測定（マスク穴開け）のそれぞれに対応します。

■仕様

測定対象	マスクと顔面との密着性の評価
測定項目	粒子個数と漏れ率、防護係数、フィットファクター
対象粒子径	0.3μm以上、0.5μm以上、0.3～0.5μmから選択
測定範囲	計数範囲0～9,999,999カウント、漏れ率0～100%、防護係数、フィットファクター1～1,000,000
電　源	AC100～240V 50/60Hz、約0.5A
寸　法	210（W）×240（D）×232（H）㎜
質　量	約3kg

ミニポンプ MP-W5P型

積算流量測定機能、定流量機能を内蔵した携帯型のエアサンプリング用吸引ポンプです。**設定流量範囲は0.050～5.00L/min**と広範囲をカバーしており、個人ばく露測定や作業環境中のエアサンプリングなど幅広く使用いただけます。

■仕様

流量可変範囲	0.050～5.00L/min
定流量使用範囲	0.050L/min：0～7.0kPa　3.00L/min：0～8.0kPa 0.100～2.00L/min：0～10kPa　5.00L/min：0～3.0kPa 2.50L/min：0～9.0kPa
ポンプ方式	ダイヤフラム方式
電　源	AC100～240V、50/60Hz、約0.5A
寸　法	210(W)×240(D)×232(H)mm(突起部除く)
質　量	0.45kg（ニッケル水素二次電池含む）

柴田科学株式会社
本 社　〒340-0005 埼玉県草加市中根1-1-62　FAX：048-933-1590
ホームページ：http://www.sibata.co.jp/　Eメール：csc@sibata.co.jp
カスタマーサポートセンター（製品の技術的サポート専用）：0120-228-766
東京：☎03-3822-2111　仙台：☎022-207-3750　名古屋：☎052-263-9310　大阪：☎06-6356-8131　福岡：☎092-433-1207

レファレンス協同データベース事業の可能性

飛田 由美

とびた ゆみ
国立国会図書館関西館 図書館協力課長

レファレンスサービスは、図書館等の職員が資料を使って利用者の質問に答えたり、調べものや資料・情報探索等のサポートをするサービスのことである。国立国会図書館は、全国の図書館員がもつ調べもののノウハウを集めて共有し、日々のレファレンスサービスに役立てたいという思いから、２００２年に「実験事業」としてレファレンス協同データベース（以下、レファ協）の構築を始め、２００５年に本格事業化してデータベースを一般公開した。

レファ協事業は、同事業に参加している全国の図書館（公共図書館、大学図書館、学校図書館、専門図書館等）の日々のレファレンス事例等を蓄積してデータベースを構築し、そのデータをインターネットを通じて提供する事業である。２０１９年６月末現在、参加館数８１５館、登録されているデータは約22万８０００件となり、館数、データ数ともに年々順調に増加している。約12万件のデータは一般公開されているため、図書館界だけでなく、社会で広く活用されている。

レファ協にはレファレンス事例のほか、調べ方マニュアル、特別コレクション、参加館プロファイルの４種類のデータが収録されている。「レファレンス事例」は参加館で行われたレファレンスサービスの記録で「質問」や「回答」だけでなく、調査の過程を記録した「回答プロセス」や回答の根拠となった「参考資料」などの情報を記録し、調査の過程を確認できるようになっている。「質問」と「回答」をつなぐ調査の過程を記載することにより、調べものを担当した図書館員がどのような情報源や探索方法を使って回答を導き出しているのかを確かめることができ、個々の図書館員のもつ調査のノウハウやコツなどを共有できるようになっている。また、多種多様な質問や調べ方が登録されており、調査研究から生活上の疑問や困りごとまで、ヒントとなる情報を得ることもできる。

レファ協の使い方は、調べたいテーマに関連したキーワード等を入力して情報を探すことが一般的であるが、最近はデータ数が増えてきたことで、さまざまな切り口から有用な情報を引き出す使い方が可能になってきた。例えば、気になる本やデータベースの名称でレファ協を検索すれば、それを活用したレファレンス事例を確認することができ、どのような場面で役立つ資料なのかを知ることができる。実際に活用されたレファレンス事例を確認することにより、書籍販売サイトのレビューとは一味違った情報を入手することができる。

従来、レファレンスサービスの記録はそれぞれの図書館等でバラバラに蓄積されていたが、レファ協に記録を蓄積・共有し、参加館数も増えていったことで、さまざまな効果を生んでいる。レファ協には登録データについて参加館同士が意見や情報を交換できるコメント機能があることから、その機能を使ってレファレンス事例を見た参加館から情報が寄せられ、未解決のレファンスが解決できたり、回答が充実するというケースもあり、つながることのメリットを感じることができる。また、インターネット公開によって知名度が上がり、広く参照されるようになったことも、登録を後押ししていると考えられる。

２０１７年には、当館と参加館の協同による活動が評価され、レファ協事業とその参加館及び協力者が「Library of the Year 2017 ライブラリアンシップ賞：レファレンスの集積・可視化・公共財化」を受賞した。今後もレファ協事業を推進し、社会に役立つものとしていきたい。

Digest of Science of Labour

労働の科学

2019 August 8
Vol.74, No.8

巻頭言　俯瞰（ふかん）

レファレンス協同データベース事業の可能性 …… 1
飛田 由美［国立国会図書館関西館］

表紙：「鬼模様B」　深沢 軍治
綿布に油彩，1620×1300mm（F100），2014年
表紙デザイン：大西 文子

特集

専門図書館を利用する
図書館のちから（2）

見える司書の肖像
……［國學院大學文学部］須永 和之 ……4

企業図書館員に求められる役割の変化と企業図書館の可能性
……［株式会社日本能率協会総合研究所］菊池 健司 ……9

21世紀の全く新しい概念の大学図書館構想
［金沢工業大学ライブラリーセンター］
教育・研究・生涯学習・地域社会の４つのセンター機能を備えた専門図書館として
……［金沢工業大学］鹿田 正昭 ……14

命を守る情報を伝えるため防災・災害関係資料を収集・提供し続ける
［防災専門図書館］……［公益社団法人全国市有物件災害共済会］矢野 陽子 ……20

病院図書室　患者さんの診療を支える
……［藤沢市民病院図書室］和気 たか子 ……25

働く人々を支え，記録と記憶を未来へつなぐ
［エル・ライブラリー（大阪産業労働資料館）］……［公益財団法人大阪社会運動協会］谷合 佳代子 ……30

図書館共同キャンペーン「震災記録を図書館に」で震災資料を収集・公開
より活用し，日常とつなぐために
［東北大学附属図書館震災ライブラリー］……［東北大学附属図書館］小林 真理絵 ……36

Graphic

ディーセント・ワークを目指す職場　8［見る・活動］(103)
ニッポン高度紙工業株式会社 ..... 口絵

Series

共生のための思想と実践
大原總一郎の場合(1) ..... 兼田 麗子 *40*

労研アーカイブを読む (44)
ホランドによる6つの職業興味領域 ..... 椎名 和仁 *44*

凡夫の安全衛生記 (32)
「あるべき姿を確認する」職場安全衛生管理評価制度
..... 福成 雄三 *48*

産業保健の仕事に携わって (13)
エピソード(2) ..... 熊谷 信二 *50*

Column

2019年日韓参加型安全衛生改善活動トレーニング（PAOT）
参加型改善の国際研修“日韓PAOT”で学んだこと
..... 坪沼 将太郎，杉浦 豪 *56*

BOOKS
『古から今に伝わる日本の文様』
多くの思いの込められた意匠と言葉 ..... 岸田 幸弥 *59*

労働科學のページ *61*

次号予定・編集雑記 *64*

見える司書の肖像

須永 和之

『見えない司書』

アイルランドの首都ダブリンにあるスティーヴンス病院の健康サービス図書館でシステム・ライブラリアンとして勤務するイーファ・ロートン（Aoife Lawton）の著作『見えない司書（The Invisible Librarian）』[1]は，SF作家のH. G. ウェールズの著作『透明人間（The Invisible Man）』を連想させるユニークなタイトルである。『透明な司書』という訳語も考えたが，組織内の情報を秘匿しない「透明性（Transparency）」を持った司書とも理解されるので，敢えて避けて『見えない司書』とする。

洋の東西を問わず，司書（図書館職員）は目立ちにくい存在である。欧米の研究者の著作を読むと謝辞・献辞には大学の司書の名前が連ねられている。研究書の執筆には司書の貢献がなくてはならない。それにもかかわらず，ひっそりと書物のページの片隅に名前を残している。

1998年にラリー・ページとセルゲイ・ブーリンが創業して，登場したサーチエンジンGoogleは私たちの生活を一転させたといって過言ではない。無論，Google以前にもサーチエンジンは複数存在していた。どちらかと言えば地域・言語限定であったため，多言語サービスを実現したGoogleは画期的で鮮烈な印象を与えた。Googleを含むサーチエンジンのおかげで，多くの人々は図書館へ行かなくとも日常生活に支障をきたさない程度の知識と情報は得られる。そのため，図書館の存在価値がますます低下して，司書は「見えない存在」になりつつある。

日本の図書館法では公立図書館で働く有資格の専門的職員を司書・司書補と呼称する。また，学校図書館法では司書教諭（教育職）と学校司書（事務職）の専門的職員の呼称がある。そのほかの図書館には専門的職員の資格もなく，特定の呼称はない。この論稿では，司書を図書館で働く専門的職員の総称として用いるが，大学図書館職員，学校図書館職員，病院図書館職員も適宜用いる。

司書の行動規範

国際図書館連盟（IFLA）の「司書とそのほ

すなが かずゆき
國學院大學文学部 教授
季刊『現代の図書館』編集委員長
主な共著書：
・『情報資源組織演習:情報メディアへのアクセスの仕組みをつくる（講座・図書館情報学）』ミネルヴァ書房, 2016年.
・『多様性と出会う学校図書館――一人ひとりの自立を支える合理的配慮へのアプローチ』読書工房，2015.
・『学校経営と学校図書館』全国学校図書館協議会, 2006年.

かの情報関連職員のための倫理綱領（IFLA倫理綱領）」[2]では次の６点に集約している。

1. 情報へのアクセス：Access to information
2. 個人と社会への責任：Responsibility toward individual and society
3. プライバシー，秘密性，透明性：Privacy, secrecy and transparency
4. オープン・アクセスと知的財産：Open access and intellectual property
5. 中立性と個人の誠実性，そして専門職としての技能：Neutrality, personal integrity professional skills
6. 同僚と雇用関係：Colleague and employer/employee relationship

上記の項目は専門的職員が守るべき「倫理綱領」とするよりは「行動規範」といえる。さらに司書と情報関連職員が遂行する使命ともいえる。現代の司書は形のある図書館資料に含まれる知識・情報だけでなく，電子媒体・手段による情報へのアクセスを利用者に保証する。さらにいえば，司書は図書館資料が利用されることで満足せず，得られた知識と情報が活用されて，利用者の生活と社会が改善されるところまで責任を持つべきと考えられる。

図書館の職務

『見えない司書』では，大学図書館（Academic library），学校図書館（School library），公立図書館（Public library），健康科学図書館（保健医療専門図書館あるいは病院図書館，医学図書館 Health science library），専門図書館（Special library）の実践事例と分析が掲載されており，国立図書館，刑務所図書館を除く，主に英語圏の図書館の事例が明らかにされる。

『見えない司書』では大学図書館職員，学校図書館職員，病院図書館職員，公立図書館職員の職務を次のように列挙している。

大学図書館職員

- 大学教員たちと重要なプロジェクトに取り組む。
- 学内の成果物をリポジトリーでオープンにアクセスできる支援システムを確立する。
- 学生にも大学教員にも学術文献に容易にアクセスできるようにする。
- 学生と大学教員からの情報要求に応じる。
- 学習を促し，意見交換でき，知識と思考を生み出すような，学生をフレンドリーに受け入れる環境づくりを約束する。
- 大学の講義で学生に教授する。
- 大学の評判を高めて，学生を惹きつけるデジタル図書館を提供する。
- 試行的な学習を促す場を設ける。

学校図書館職員（司書教諭・学校司書）

- 児童生徒の成績を向上させるために教員と協働する。
- デジタル情報の活用も含めて，児童生徒の情報活用能力を向上させる。
- 図書にも電子メディアにもアクセスできる開かれた学習環境を提供する。
- 児童生徒たちが仲良く交流できるクラブ活動を運営する。
- カリキュラムに関連して学習結果につながる教育的資料を収集する。
- 学校の行事予定に基づいて学校図書館の行事を主催する。
- 児童生徒と一緒に資料の選択を行う。
- 全校の児童生徒を迎え入れて創造性と学習の意識を高める学校図書館の雰囲気をつくる。

病院（あるいは保健医療）図書館職員

- すべての病院スタッフにエビデンスに基づく資料をいち早く支障なく伝える。
- 目的に即した図書館の空間をつくる。
- 臨床医の教育・学習の要求に応じた電子情報を臨床医と協働して作り上げる。

・日進月歩の最新情報を恒常的に医療従事者へ提供する。
・院内カンファレンス（症例検討会）に参加する臨床医へ定期的に最新の情報を提供する。
・病院の研究成果である論文の共同執筆者となって校閲も行う。
・時宜を得た方法で専門家に患者のケアとエビデンスに基づく意思決定について情報を提供する。
・病院スタッフ向けの論文作成指導集会（ジャーナル・クラブ）を実施する。

公立図書館職員（司書・司書補）
・地域の課題について図書館で集会を主催する。
・幅広く読書活動，学習活動，リテラシー活動を推進する。
・さまざまな形態（紙媒体，電子媒体）の読書資料を提供する。
・あらゆる立場の人々を迎えて，学習，読書，娯楽の場としての図書館を運営する。
・情報リテラシー・デジタルリテラシーについての学習会を提供する。
・情報と活動の場の提供によって地元の事業者を支援する。
・地元のコミュニティに在住するあらゆる立場の人たちを迎える場を提供する。
・外出できない人へのモバイル・サービスを含めて，アウトリーチ・サービスを提供する。

視覚化へのステップ

『見えない司書』では，上記のような司書の職務が見えるようになるための10のステップを視覚化（Visibility）の文字順に列挙する。

○ステップ１：視覚化（Visualise）
設置者（管理職），図書館スタッフへ将来の計画を表明する。

○ステップ２：即座の行動（Improvise）
機会を見つけて，計画を実行するための人材と財源を確保して，モチベーションを高めていく。

○ステップ３：手順を踏まえた計画の立案（Strategic planning）
到達点と目標値を示す。目標値はKPI（最重要プロセスの目標値key performance indicator）で示す。KPIについては後述する。

○ステップ４：計画の実行（Implement plan）
事業計画と使命を意思表明する。図書館の設置者と利用者の立場で期待される項目を列挙する。

○ステップ５：先手必勝を目指すこと（Be proactive）
司書は自分の図書館情報学の知識と技術を外部に向けて多くの人に知ってもらう。そのためのいくつかの方法がある。たとえば図書館とは関係のなさそうな会議とイベントに参加して，人と会って計画を話す。

また，ソーシャル・ネットワーク・サービスSNSを効果的に活用する。Twitter，Facebook，Linkedln Blog，YouTubeが活用できる。利用者にも働きかける。設置者と利用者に知ってもらうためには，説明の内容が簡潔で，理解されにくい専門用語を用いないことである。

○ステップ６：伝達（Inform）
実行可能な数値目標をKPIとともに示す。

○ステップ７：リフト・スピーチあるいはエレベーター・ピッチ（Lift speech/elevator pitch）
エレベーター（英国ではリフト）に乗っている時間，30秒から２分程度で事業計画を説明する。それは廊下，食堂，会議の場で相手に出会ったとき，すばやく明瞭に伝わるように訓練する。

○ステップ８：改善（Improve）
事業計画を実行するにあたって，問題点を発見して，検証するデータを集めて，分析して，改善点を見出して，影響を与えることが

できたかを評価する。

○ステップ９：適合（Tailor）

図書館でのサービスが利用者の期待に見合った利益になったか，図書館を利用しない人たちへ影響を与えたかを調査して，目標を調整する。

○ステップ10：「あなたならできる」（You can do it）

司書として事業計画を推進する自信を持つ。

ステップ９の「適合」で「図書館を利用しない人への影響を調査する」とある。利用者の満足度調査も必要不可欠であるが，司書の働く姿が見えないのは図書館を利用しない非利用者である。図書館の影響力を示すには，非利用者への働きかけが重要である。

KPIの設定

これまで公立図書館では地域の住民の登録率，資料購入費，貸出冊数と蔵書の回転率，レファレンスの受付数と回答数をサービス活動の指標としてきた。しかしながら，これらはサービス活動の実態であり，図書館の施設を改装したり，運営費を増大したり，職員を増やしたりすれば，改善できる指標である。

図書館の設置者である地方自治体からすれば，サービス活動が地域住民の生活に影響を与えているのかを示す指標が欲しい。たとえば，児童へのサービスが進学率を向上させる，ビジネス支援が地域の企業の製品出荷額を増加させる，読書が飲酒という習慣を減らすというエビデンスに基づく結果を示す指標があれば，図書館と働く司書の存在は鮮明に見えてくる。

KPI（最重要プロセスの目標値key performance indicator）[3]は企業で行われてきたマネジメント手法であるが，『見えない司書』では図書館経営に応用する可能性を示している。

たとえば，大学の経営者が大学の知名度を上げる方策を検討しているとする。そこで教員の研究力を１年間に生産する論文数で表そうとして指標を求める。これは大学側の目標値となる。大学図書館では教員が１年間に生産する論文数を増やすために，どれだけ資料と情報を提供できるかを検討する。学部の教員数と，１年間に教員が生産する平均論文数を算出する。１論文につき参考文献が平均20件ならば，研究に必要な資料数（図書，雑誌，電子資料）を少なくとも２倍の40件の資料数が必要となる。大学図書館職員が論文作成に向けてのレファレンス・サービスできる時間も算出する。６ヵ月，１年で論文数を測定して，伸び率が見られないならば，資料数を増やす。大学図書館職員は教員に対して「資料を増やして論文作成を支援する」ことをアピールする。この例では教員が論文を書くために必要な資料数がKPIである。

必ずしも数値に振り回される必要はないが，数値目標は図書館の設置者と利用者がサービスの改善の必要性を理解しやすく，図書館スタッフも達成感を感じる。

エビデンス固執の弊害

エビデンスを重視しすぎると，誤った結論を導く可能性がある。

たとえば「高齢者が図書館を利用すると，長生きをする」というエビデンスに基づく結果が得られたとする。そこで長寿の原因は読書による脳の活性化と結論づける。図書館関係者は図書館の利用を呼びかけたいので，「図書館で脳年齢が若返る」とキャッチフレーズ（リフト・スピーチ／エレベーター・ピッチ）が思い浮かぶ。しかしながら，「長寿の高齢者が増えたから，高齢者の図書館利用が増えた」と考えることもできる。順当に考えれば，高齢者が増えた原因は医療の進歩，食糧事情の改善，社会福祉の充実，安全な地域社会の実現である。読書が脳の活性化に役立ち，図書

館で健康と医療に関する情報を知ることができるとしても，図書館利用が長寿の直接の原因とは考えられない。

見える司書の肖像

図書館に無限の力があることは否定できない。その図書館の力を引き出すのが司書（図書館職員）である。

カイル・キャシディーの米国の司書たちの肖像写真集[4]は，図書館の職務への自信に満ちあふれた微笑とともにメッセージも掲載する。ニューヨーク公共図書館の部長ニコラ・マクドナルドのメッセージは「毎日，人々の生き方に活気を与えるから，図書館の仕事が私にピッタリね。（中略）私たち（司書）にできることが山ほどあるから，コミュニティの中で図書館には大切な役割がある。少しでも役に立てることがあって，うれしく思います」である。

専門的職員である司書は，診療科を掲げる医師と同様に，自分の専門分野を利用者に知ってもらう必要がある。図書館の入口に司書，そのほかの職員の肖像写真を掲げよう。司書たちの名前とともに，立場と業務，専門領域，利用者へのメッセージを書き記そう。

参考文献

1) Lawton, Aoife. The Invisible Librarian: a librarian's guide to increasing visibility and impact. Chandos, c2016.
2) IFLA倫理綱領（2012年４月公表, 2013年１月　井上靖代訳）https://www.ifla.org/files/assets/faife/codesofethics/japanesecodeofethicsfull.pdf （参照2019/７/13）
3) 中尾隆一郎．最高の結果を出すKPI　フォレスト出版 2018
4) Cassidy, Kyle. This is what a librarian look like: a celebration of libraries communities, and access to information. Black Dog & Leventhal, 2017.

大原社会問題研究所雑誌

731・732号 2019年9･10月号　定価（本体1,852円＋税）年間購読12,000円（税込）

【特集】大原社会問題研究所創立100周年・法政大学合併70周年記念シンポジウム
社会問題の現在

特集にあたって　鈴木　玲
労働問題の視点から　上西充子
貧困問題の視点から　布川日佐史
［記念講演］大原社会問題研究所の100年　二村一夫
環境問題の視点から　西城戸誠
パネルディスカッション

■論文　東洋社会党をめぐる自由民権期の社会主義観　大田英昭
■資料紹介　追加情報――『水平新聞』所蔵機関　中村美香
■書評と紹介
阿部武司編著『大原孫三郎』　山本長次
高野剛著『家内労働と在宅ワークの戦後日本経済』木本喜美子
小杉亮子著『東大闘争の語り』荒川章二
中村理香著『アジア系アメリカと戦争記憶』　金　富子
Anthony Carew, *American Labour's Cold War Abroad*　高瀬久直
法政大学大原社会問題研究所2018年度の歩み／
社会･労働関係文献月録／月例研究会　阿川千尋／所報　2019年5･6月

発　行／法政大学大原社会問題研究所 〒194-0298 東京都町田市相原町4342 Tel 042-783-2305
http://oisr-org.ws.hosei.ac.jp/
発売所／法政大学出版局 〒102-0071 東京都千代田区富士見2-17-1 Tel 03-5214-5540

企業図書館員に求められる役割の変化と企業図書館の可能性

菊池 健司

はじめに

企業図書館は，自社社員のビジネスにかかわる調査相談機能を担う，昔も今も非常に重要な存在である。

名称は図書館，情報調査部，ビジネスインフォメーションサービス等々，各社によりまちまちではあるが，企業の意志決定において重要な情報収集の中心を担う存在として今日も機能している。

ただ，これも時代の流れか，近年はこの機能を持たない企業が増加している。

また，有している場合でも，機能の縮小やワンパーソン化，場合によっては休眠化してしまうケースもある。

私自身は，令和の時代を迎えても，企業図書館には極めて重要な役割があると考えている。

きくち けんじ
株式会社日本能率協会総合研究所 MDB事業部部長
主な著作：
・「書籍に学ぶビジネストレンド」（連載）『LearningDesign』日本能率協会マネジメントセンター（隔月刊）
・「今週の読まぬは損」（連載）『J.H.倶楽部』日本能率協会マネジメントセンター，URL: https://jhclub.jmam.co.jp/series/index.html

そして，企業図書館の意義がより見直され，やはり組織で有するべきという流れに進むのでは，と予想している。

本稿では，10年後を見据えた企業図書館のあり方，とりわけ今後，企業図書館員に求められるであろう役割について言及していきたいと考えている。これからの10年，きっと図書館業界にはさまざまなチャンスが広がっている。

「生き字引」というありがたい存在

私は日本能率協会総合研究所が運営しているマーケティング・データ・バンク（MDB）という法人向け情報提供サービス機関（いわばさまざまな業界向けのビジネス図書館）において，長年にわたり勤務している。

まだインターネットがない時代から，有益な情報を素早く探し，顧客に提供する仕事を行ってきた。

近年は主に新規事業，新テーマ探索をサポートする機会が非常に多い，ということを最初に紹介しておく。

さて，生産技術の現場においては，いかにベテラン社員の技術や手練手管を次代の社員に伝承していくか，が大きな課題となっている。今後，AIやIoTによって自動化や機械化が進むとはいえ，そんなに簡単に全てが置き

換わっていくわけではない。

これは生産技術に限った話ではない。幅広い業界知識を有し，社員にアドバイスをすることができる企業図書館の世界においても，同様の事象が起こっている。

かつては多くの企業図書館において，業界を代表する，まさに「生き字引」という表現がふさわしいベテラン図書館員が多数存在していた。何人かのベテラン図書館員の方々からは，調査業務を通じて，私自身も随分と教えていただいた。今でも思い出すと，背筋がピンと伸びる思いである。

もちろん，現役の生き字引の方々もいらっしゃるのだが，減少トレンドにあることは否めない。

そうした方々は，自社の社員に対して，調査の手法や見るべき文献について，実に詳細にアドバイスをしていた。そこには「視野の広さ」が大きなポイントとして存在していた。

ユーザー側も図書館員の存在を頼りにしており，間違いなく一目置いていたのではないかと思う。

時折ふと考えることがある。各企業において，「生き字引」の知恵や知識はどのような形で次の世代に伝承されていくのかと……。

「生き字引」の豊富な知見や知識は，簡単にAIに代替される代物ではない。

企業ユーザーの調査スキルについて思うこと

企業図書館が現在社内に存在しない機関においては，組織に属するビジネスパーソンの調査能力が相対的に低下しているのでは，という懸念を抱いている。

わが国においては，企業研修において，情報調査の手法について時間を割いている企業はおそらくほとんど存在しない。なぜならその役割は，多くの場合，企業図書館担当者や調査部のベテラン社員が担っていたからだ。「調査スキル」の教育がやや軽視されてきた感もある。

企業図書館が存在する機関においても，新人研修等において，図書館機能や調べ方に関する研修時間はどんどん少なくなっているという話を聞く。中にはマニュアルを配布して終わりというケースもあるようだ。

「調べる」というスキルはある意味恐ろしいことだが，キャリアを積んだ社員であれば「できて当たり前」と周りから勝手に思われてしまう，いやはやという感じである。

とはいえ，特に教えられてもいないことを人は簡単にはできない。

私自身はもう20年以上に渡り，各企業や団体において，「情報収集・活用手法」に関する研修等を行っているのだが，ここ1〜2年の傾向としては，次世代幹部候補生研修，マネジャー研修，時には役員研修に呼ばれる機会が格段に増えたことがポイントとして挙げられる。

そうした研修の終了後，大抵このように言われる。「もっと前からこういう手法を知っておきたかったです」と。

企業の中に，自社ビジネス発展に資する「情報収集・活用手法」を教えていく存在の重要性がこれからの時代，さらに身に染みて感じていくはずだ。

これからのビジネスパーソンが有しておきたいスキルは数々存在するが，グローバルで競う時代において，情報調査力を備えておくことは当たり前のことである。

Webでサクッと何となく調べて終わり，という方も多いのだが，これでは今後，勝ち抜くことはできない。

企業内において一定の「調べるスキル」はやはり共有・伝承されていくことが望ましい。

企業図書館は，その役割を担うことができるのだ。

企業図書館員に求められていくこと

これからの企業図書館員に求められる能力について，私なりに整理して紹介しておく。

大きくは以下の3点だと考える。

⑴ 幅広い業界に関する知見・知識

今後10年，20年のタームで，本格的な業界大再編時代に突入する。

しかも注視すべきは，異業種間での業界合体が本格化し，産業構造が大きく変化していくという図式である。例えば，自動車業界と住宅業界が合体して，新たなビジネスプラットフォームを構築しても全く驚かない。

企業図書館員は，自社業界に大きな影響を与えるであろう他業界や社会トレンドを推測し，社内に発信していくという役割がある。そのためには，さまざまな業界でどのような変化が生じているのかを見ておく必要がある。

「会社四季報業界地図」（東洋経済新報社）のような，多くの業種で起こっている変化を短時間で学べる書籍等は読んでおかなくてはならない。

また，他業界の変化に学ぶというのは，他業界でこれまでに起こった事象が自分の業界でも起こる可能性があるということを常に認識しておく必要があることを指す。

「この分野の予測をしたいなら，過去にこの業界で起こったテクノロジーの変化と市場の変化を見ておくと参考になる」といったアドバイスをどんどんしていけるとよい。

⑵ どの情報を見るべきか，を指し示す能力

今，最も懸念していることの一つは，ユーザーが「情報が多過ぎて探せなくなっている」という現象である。

1996年に登場したインターネットが，情報収集の世界に劇的な変化・進化をもたらしたことは今さら説明の必要はないであろう。

クリック一つで世界の情報にアクセスできる，ロケーションに関係なく情報が探せる，これは素晴らしいことなのだが，情報自体は増えていく一方である。しかも正しい情報ばかりではない……。

自身が見るべき情報を判断するための尺度，物差しが急速に失われている気がしてならない。おそらく，迷って探せない，探し切れないという人は増加傾向をたどる。

そこに企業図書館員の出番がある。

「こういう時にはこういう情報を見る」「この出典の情報を見る」「この業界を見るときには，産業のつながりの観点からこの情報を補完的に見ておいたほうがいい」ということを力強く指し示せる存在である必要がある。これは実に重要な「存在価値」である。

⑶ 未来関連の情報を提供できる能力

世界に先んじて少子高齢化が進み，世界に先んじて産業再編が進む可能性も高い。それが日本である。

「不安な時代」には，未来予測情報のニーズが高まる。当面このトレンドは続くことが予想される。

ユーザーにおいては，未来関連の情報への関心度合いがますます高まっていくはずだ。

企業図書館員は，「未来関連」の情報源に一段と敏感になる必要がある。そして自社が注目すべき，未来予測情報について，経営陣や社員に伝えていく必要がある。

日本はもちろん，世界の官公庁や業界団体が発表している「経済ビジョン」「産業ビジョン」や各種審議会・委員会での議論内容（特に法規制に関わる情報はビジネスの変化に直結する），民間調査機関の未来予測情報，未来にまつわるさまざまな論客が書籍やWeb上で発表している情報には常に目を光らせておきたい。

「未来予測情報」に詳しい，と一目置かれることが，必ずや今後の企業図書館員のアドバンテージになる。図書館員にも「フューチ

ャリスト」思考が必要なのだ。

情報源の変化

企業図書館としては，情報源の変化も押さえておきたいポイントである。

現時点での情報源は大きくは以下に大別される。

①紙媒体の文献（入手容易）　※単行本や単発で購入できる雑誌など
②紙媒体の文献（入手困難）　※高額調査資料や年間購読限定雑誌など
③商用データベース（国内／海外）
④電子ジャーナル／電子書籍
⑤Web情報

①と②はもちろん図書館の肝である。予算を睨みながらどの文献を購入するか，購読するかに都度頭を悩ませる。ユーザーからこの調査会社の資料を是非購入してほしいと懇願され，時には購入したり，時には予算の関係で泣く泣く見送ったり，悲喜こもごものシーンが繰り広げられる。選書のセンスも問われる。

念のため，申し添えておくと，過去の文献は簡単に処分しないほうが良い。スペースの関係で処分してしまい，後悔している企業の話を多く耳にしている。

・Webで新しい情報は取れるが，古い情報は取れないケースが多い。
・優れたビジネスパーソンは「時系列の変化」を重視する傾向があり，過去の情報源も重視している。

といった理由が挙げられる。

③は，時代の変化に伴い，さまざまなデータベースが登場してきている。各データベース事業者がコンテンツの拡充を図っており，引き続き注目しておきたい存在である。

④は今後，図書館蔵書の主流を占めていくのであろう。遅れている電子化の進展に期待がかかる。課題としては，検索性（必要な情報を探す際の操作性）と一覧性（紙媒体をパラパラめくるあの操作性には敵わない）が挙げられよう。

⑤は，日本においては，調査会社の資料や業界専門誌紙を筆頭に，紙媒体でしか得られない貴重な情報源も多い。一方，官公庁資料のWeb公開や文献の電子化など無料・有料を問わず，何らかの形でWeb上において情報収集活動を解決すべく，取り組みが進んでいる。

図書館員はいつの時代も情報源に敏感でなければならない。ユーザーを導くためには，当然のことながら情報源の変化と広がりに精通していなくてはならないのだ。

企業図書館への大いなる期待

企業図書館の役割は確実に変化してきた。

ユーザーが求めるピンポイントの情報を紹介できることが最大のミッションであることに大きな変化はない。ただこれからは，プラスアルファが必要な時代である。

時には，代替情報，周辺情報を提示しながら，「なるほど，その手があったか」といった言葉をどんどんユーザーから引き出していけることが望ましい。

そして，前述の通り，自社業界に今後関わりそうな，影響を与えそうな「未来予測文献コレクション」を常時展示すれば，それだけでも多くのユーザーが集まる予感がする。

経営層に対して，「われわれは常に未来を見据えた蔵書コレクションをしていますよ」という格好のPR材料にもなる。

ここ数年，多くの企業が「未来創造室」「未来創出室」といった部署を新設し，「未来」を見据えて，事業構想を行うことを標榜している。

企業図書館は，図書館としての立場から，「未来探索ラボ」の役割を担っていけると思う。

そこに行けば何かビジネスのヒントが得ら

れる，という場にその姿を変えていくことが望ましいと私自身は感じている。

おわりに

個人的な見解と前置きさせていただくが，私は今後，図書館機能を復活させる企業が増えていくのではないかと期待している。

その背景については，ここまで述べてきた通りだが，最後にもう一度，整理しておこう。

①社員の調査能力向上策の一環→大げさではなく今後の企業成長に関わる大きな課題

②情報が多すぎて調べられない，何を見ていいかわからないといった現象への対応策→業界に精通した図書館員がいれば，部署関係なく指導ができる

③新たなビジネスを検討する，新たなビジネスを生み出す場としての再評価→図書館でさまざまな未来予測情報を俯瞰して見られることが場として評価される

AIの進化とともに，検索エンジンに自身のビジネステーマを入力すれば，ビジネス上狙うべきポイントや対応策も含めた全ての答えが出てくる，そんな時代が来るのかもしれない。

そうなれば，実に画期的な時代である。

ただ，それはきっとまだまだ先の話に違いない……。

10年後いや20年後30年後も見据えて，企業図書館の機能がさらに高まり，多くの企業が切磋琢磨していく未来が訪れることを，本当に心から願っている。

もちろん，私自身も一人の企業図書館員として，世の流れを先読みしながら，必死で能力を高めていきたいと考えている。

安全衛生活動のあらゆる場面で手引きとして活用できる
新機軸・新構成のハンドブック

産業安全保健ハンドブック

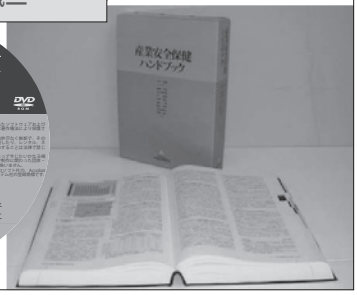
産業安全保健活動にかかわる項目を完全に網羅した充実の構成
各領域第一線の執筆陣272名が372項目を書下し
項目ごとに見出し区分を統一、最後に担当者の心得を具体的に提言

4頁と2頁の見開きレイアウト、多数の図表・写真の挿入で読みやすく、使いやすく
「大震災被災地の安全と健康」の付章を設け、23編の報告を収載
検索、カラー印刷に役立つカラー版DVD-ROMを付録に

［編集委員］
小木和孝 編集代表
圓藤吟史　大久保利晃　岸　玲子　河野啓子
酒井一博　櫻井治彦　名古屋俊士　山田誠二

25年ぶり
待望の最新版！

体裁　A4判 函入り
総頁　1,332頁
本文　横2段組み 索引付
付録　DVD-ROM カラー版
定価　本体50,000円＋税



〒169-0073
新宿区百人町3-23-1
桜美林大学キャンパス内1F
TEL：03-6447-1435
FAX：03-6447-1436
HP：http://www.isl.or.jp/

公益財団法人
大原記念労働科学研究所

金沢工業大学ライブラリーセンター

21世紀の全く新しい概念の大学図書館構想

教育・研究・生涯学習・地域社会の4つのセンター機能を備えた専門図書館として

鹿田 正昭

はじめに

ライブラリーセンター（以下，LC）の前身は1965年に金沢工業大学付属図書館として設置され，1982年に移転・改称して現在に至っている。LCを紹介する前に，金沢工業大学（以下，KIT）について簡単に紹介する。

KITはKITと国際高等専門学校（ICT）を擁する金沢工大学園の中核をなす工学系単科大学として1965年に開校した。現在は４学部12学科に約6,800名の学部生と東京虎の門にある社会人大学院を含む12専攻に約490名の大学院生が学ぶ工学系総合大学となっている。ICTは約300名の在籍者がある。この間の卒業生は７万4,000名を超え，国内外で活躍している。

以上のような歴史を背景として，金沢工大学園のランドマークであるLCの特徴について紙面の許す限りご紹介する。なお，LCを含む多くの施設やKITおよびICTの詳細については巻末に示すホームページでご参照いただければ幸いである。

しかだ まさあき
金沢工業大学 副学長，ライブラリーセンター 館長
主な著書
・『エース測量学』朝倉書店，2003年.
・『空間情報工学概論』日本測量協会，2005年.

LC の概要

まず，LCの概要について紹介する。蔵書数は2019年５月現在，図書資料約57万２千冊，そのほか学術雑誌，学術情報（電子ジャーナル，データベース，電子書籍）を整備（配備）している。LCスタッフは65名（サブジェクトライブラリアン23名，ライブラリースタッフ39名，ライティングセンター３名）となっている。

建築面積は6,500m^2，延床面積は21,730m^2，座席数は1,544席である。また，2018年度の年間開館日数は337日，１日平均貸出冊数は437冊，１日平均入館者数は967人であった。図１にLCの外観を，図２にエントランス（入館ゲート）を示す。

LC の役割

LCはKITおよびICTの図書館として，学園の建学綱領（人間形成・技術革新・産学共同），また，それに基づく教育，研究の方針によって果たすべき基本的な機能・役割が定められている。LCの機能，役割に関しては，1983年４月１日付で，酒井悌初代館長（当時の前国立国会図書館副館長）から出された「LC構想―本学の建学の綱領と学長の教育方針に基づく」と題する文書によって明示されている。

酒井館長が明示したLCの果たすべき基本的な機能は次の４つであり，現在も在学生の学習支援と教員への教育・研究支援を行うとともに，

図１　LCの外観

図２　LCエントランス（入館ゲート）

卒業生および地域住民へのサービスを行う役割を担っている。

⑴　教育（支援）センターとして

①教育を支援するための資料収集，情報収集及びそのサービスと機能向上

②情報利用教材の作成，レファレンスサービス及び読書指導，LC活用情報の作成を含めた図書館情報利用教育

③一般的，専門的教養拡充のためのイベント開催，企画展示，講演会などの開催

⑵　研究（情報）センターとして

①研究を支援するための資料収集，情報収集及びそのサービス

・研究用書籍，雑誌，各種データベースの収集と提供，それらに関する情報収集と提供

②研究者の研究学術情報収集に対する支援のためのサービス

・国内外のデータベース検索サービス，図書館間相互協力（ILL: Inter Library Loan）による資料貸出提供，コピー提供，国内外の専門図書館，大学図書館，高専図書館との協力組織の形成，研究者に対するレファレンス

③国内外の学協会，学術団体，大学・高専に関する情報サービス

・海外大学，研究機関の連絡方法の調査

⑶　卒業生のための学術情報センター（支援センター）として

①卒業生に対する資料提供，情報サービス

・LC情報提供と資料貸し出し，Webによる所蔵検索の提供，FAX，E−Mailによるレファレンスサービス

⑷　地域社会の情報センターとして

①地域（石川県及び北陸）の産業界に対する情報サービス

・資料貸し出し，文献複写サービス，学術団体情報の提供，レファレンスサービス

②地域の公共，専門，大学図書館に対する情報サービス

・ILL，所蔵データベース検索の提供

LC の特長

⑴　分野別フロア

一般の図書館（大学図書館含む）における分類と排架は日本十進分類法（NDC）が広く利用されているが，LCでは工学系総合大学としての図書館機能を十分に生かす見地から分野別フロアとし，NDCに併せて独自の蔵書番号を用いている。LC高層階（５F〜10F）は図３に示すように，学部・学科の専門フロアとして構成しており，各フロアには検索用端末が配置され資料の有無を手早く調べることができるようになっている。

2019年度における具体的なフロア構成は，

・10F：化学・バイオ系，生命・心理系
・９F：環境・都市工学系，建築計画・デザイン系
・８F：力学応用系，材料工学・加工工学系，建設工学系
・７F：機械工学系，資源・エネルギー工学系
・６F：電気工学系，電子・通信工学系
・５F：情報工学系，経営管理工学系

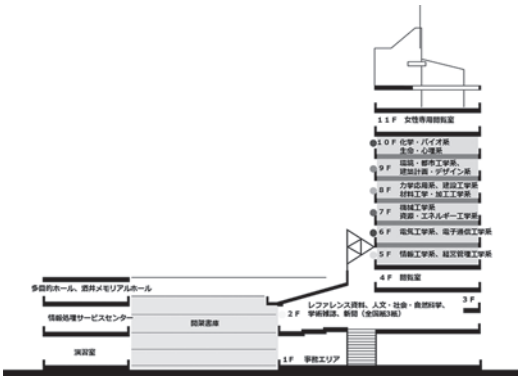


図３　フロア構成

図４　高層階の様子

となっており，各階には書架を囲むように閲覧席が配置され，その他，個別学習室が１室，グループ閲覧室が２室あり，少人数対象の講義やゼミナールなどもできる施設がある（図４）。

(2)　SL制度および専門基礎教育部

サブジェクトライブラリアン(Subject Librarian: SL) 制度は, LCの建設が決定した段階において，当時の京藤睦重学長の賛意を得て，酒井悌初代LC館長（当時のLC設立準備委員長）によって構想され，現在に至っている。一般の図書館における司書の役割を担うSLの使命と任務は以下の通りであり，毎年度初めのSL会議においてSL室長によって確認されている。

○SLの使命

・蔵書構成の実質的な責任者であり，担当分野の最新情報に関する責任を持つ
・図書館と教育研究を緊密に結びつけるための企画を策定する
・図書館とユーザー（学科・課程・学生・職員など）とを結ぶパイプ役を担う
・図書館資料利用についての指導助言者・啓発者であるとともに利用者教育の指導的立場に立って図書館利用(レファレンスや著作権など)の指導をおこなう

○SLの任務

・図書，電子ジャーナル，雑誌（バックナンバー含む）などについて把握しておくこと
・担当分野での不足情報資料について留意しておくこと
・所属する学系・学科・課程の要望を聴取するとともに電子ジャーナル・雑誌などの継続・中止について検討すること
・図書・文献及び電子ジャーナルの検索方法，利用支援及び学習相談などのレファレンスを担当すること
・担当分野に関する情報・資料について収集整備に努めること
・国内外の関連学会などにおける情報資料の把握と整備に努めること
・担当分野に関するデータベースについて購入または継続の必要性を検討すること

筆者が国内外の図書館を訪れた際，あるいはLC見学者に「KIT–LCでは司書に加えSLがその役割を担っている」としたうえでSL制度の説明をすると, 一様に驚きの感想を持たれるのは，SL制度が世界の大学図書館にあっても，例を見ない独自の取り組みであり，その存在が国内外に知られるにつれて大きな注目を受けてきたからであると感じている。

専門基礎教育部は専門基礎教育の充実を図る施策立案とLCとの連携による支援のあり方を検討し実施することを目的に，2006年４月に発足した。発足当時はSLと専門基礎教育部は別組織として存在していたが，専門基礎学力の向上並びに増進を図るためのプログラムの策定と実施，大学院進学学生の基礎学力の底上げなどの目的からSLが兼務することが望ましいとして，現在はSLが専門基礎教育部委員を兼務している。

専門基礎教育部（委員はSL）は数理基礎科目（数学，物理，英語，化学，生物など）と学科における専門科目（基礎）との関連性の整理，専門基礎学力の保証レベルの策定，専門科目と専

図５　学習支援デスク

門応用科目の整合性の確認と調整などを具体的な行動目標としている。

⑶　学習支援デスク

LCでは，専門基礎科目について，自ら学びたいという学生のために課外での個別学習支援を行っている（図５参照）。LC内にある学習支援デスクでは，専門分野の教員が決められた時間帯にデスクに待機し，専門基礎科目に関する学習相談や個別指導・グループ指導を行っており，2018年度は年間約300名の学生が利用している。

学習支援デスクを担当する教員はSL（＝専門基礎教育部委員）であり，SLはすべての学部・学科から選出されていることから，日時に制限はあるものの学習支援デスクを訪ねることで学習内容での不明な点，参考図書の探し方，研究に関する相談などができる。

⑷　リザーブドブック

リザーブドブックとは授業の内容を良く理解してもらうために事前に読んでおいてほしい資料，実技科目のレポートなどを作成するうえで参考にしてほしい資料などを教員が指定するもので，学生３～４名に対して１冊を用意し，LC館内または館外で閲覧できるようにしている。

⑸　教学半，シニアＳＡ・シニアＴＡ，Knowledge Square

KITの教育基本方針の一つに「教学半」（きょうがくなかば）がある。「教学半」とは，大学での学習は「教わる」だけではなく「学び」であるというもので，その由来は中国の古典「書経」に記されている故事で，「教えることは学ぶことでもある」という意味を表し，教える立場の者は学ぶ者より数倍の時間をかけて準備をしなければならないことを示唆している。

そのため，KITでは一般の大学でのSA，TAとは異なり，シニアSA，シニアTAを育成し「教学半」を実践している。一般のSA，TAは授業における出席調査やレポート回収，実験準備や補助などが主たる業務であるが，KITのシニアSA，シニアTAは授業で分からなかった点や学習指導を積極的に実施する仕組みであり，ラーニングピラミッドのベースになる「Teach others」を実践している。

「教学半」である「Teach others」を行うには，場所と時間が必要であり，その仕組みをLCが提供している。図６はナレッジスクエアと称する「教学半（Teach others）」を実践する場であり，多くの科目においてシニアSA，シニアTAが教

図６　Knowledge Square

図７　シニアＳＡ・シニアＴＡの紹介パネル

図8　STEMビブリオプラザ

師役を務めている。このことは必然的に学習能力を高めることになり，「教える側」「教えられる側」(いずれも学生)にとって良い刺激となっている。2018年度は年間約2,900名がKnowledge Squareを利用した。

(6) STEMビブリオプラザ

STEMとはScience, Technology, Engineering and Mathematicsのことであり，KITでは科学技術における学びと創造，「知のキャッチボール」の楽しさを体感，実感，追体験する場となっている（近年はこれにArtを加えてSTEAMとしている)。

科学研究史において画期的な発見や発明を行ってきた科学者・技術者に関する人物像・業績について，原書のレプリカや関連研究に関する図書をシリーズとして構成し紹介している。また，“定理・法則・原理”などの実技・実証・実験するための器具が設置されている。

工学の曙文庫とPMC

前節STEMビブリオプラザで一部を紹介したが，KITでは，工学の創造的探究と，人間性とのかかわりを正しく把握，判断するためには，科学及び工学の発展の軌跡，その歴史的認識が重要かつ不可欠であると確信して，科学技術史及び科学技術倫理の教育と研究を実施するとともに，発展の途上において行われた主要な科学的発見，技術的発明の原典初版を収集して教育研究に活用している。

それらは，工学の曙文庫として収集された稀覯本であり，現在2,000点余りが所蔵されている（図9)。代表的なものとしては，グーテンベルグによって印刷技術が発明された15世紀以降の書物があり，古くはコペルニクスの『天球の回転について』からニュートンの『プリンキピア』，近年のものでは『スペースシャトル・チャレンジャー号の事故に関する調査委員会報告』などもある。

LCでは「工学の曙」文庫の中でも選りすぐりの110点をホームページで紹介しているほか，洞察力に満ちた次代の技術者を育成するために，全学生に対して科学や技術の文化史，思想史，倫理に係わる科目を必修としており，「工学の曙」文庫はそのバックボーンをなすものとして講義（一年時の修学基礎）に利活用されている。

これらの稀覯本は「世界を変えた書物展」として，金沢20世紀美術館，名古屋市科学館，グランフロント大阪北館および上野の森美術館で展示公開を行い，多くの方々の参観とともに

図9　稀覯本（貴重資料室）

図10　世界を変えた書物展

図11　PMC（ポピュラー・ミュージック・コレクション）

好評を得た（図10）。

PMC（ポピュラー・ミュージック・コレクション）はアナログ・レコード・ジャケットの芸術性に着目し，ジャケット・アートの数々が，ものづくりをするKIT学生の感性を啓蒙し，技術と文化の関係を問い続ける契機にしていきたいと考え設立した（図11）。PMCではロック，ポップス，ジャズなどあらゆるジャンルのアナログ・レコードを所蔵しており，そのすべてが全国の方々からの寄贈によるものとなっている。

2019年５月現在の所蔵枚数は25万枚を超えており，休息時間や空き時間を利用した学生がボディ・ソニック（体感音響装置）を介してPMCを楽しんでいる。

おわりに

以上，KIT−LCの沿革と一般の大学図書館にはないユニークな仕組みのいくつかについて紹介した。現在，高等教育のあり方は大きく変わろうとしている。その中心にあるのがSociety 5.0であり，国連が提唱するSDGs（Sustainable Development Goals）である。KITが取り組むSociety5.0とSDGsを達成することは，地域の身近な課題と地球規模の課題を同時に解決することになる。

KITは，ICT，IoT，AIの先端技術を活用した新たな地方創生を牽引する地域連携・産学連携プロジェクトの拠点大学となることを目指しており，教育・研究を支える「知の拠点」としてKIT−LCが存在している。KIT−LCは在学生，教職員および卒業生への教育研究支援機能を整備したラーニングコモンズであり，上述の目標に対して今後もさらなるサービスの展開と充実を図ることとしている。

最後に，本編を記すに当たっては，歴代館長，KIT−LCスタッフが長い期間を経て構築してきた多くの資料を参考にして執筆したことを付記し，感謝の意を表します。

参考文献および引用資料

1）2017年４月１日，ＳＬ活動の指針
2）2017年４月１日，専門基礎教育部の活動指針ライブラリーセンターとＳＬ制度
3）2017年４月１日，専門基礎教育部の活動指針
4）文部科学省平成25年度　大学図書館における先進的な取り組みの実践例04 SL（サブ　ジェクトライブラリアン）制度
・https://www.kanazawa-it.ac.jp/kitlc/
・https://www.kanazawa-it.ac.jp/kitlc/index.html
・https://www.kanazawa-it.ac.jp/shomotu/about.html
・https://kitnet.jp/pmc/about.html

防災専門図書館

命を守る情報を伝えるため 防災・災害関係資料を収集・提供し続ける

矢野 陽子

防災・災害に関する唯一の専門図書館

防災専門図書館は，その館名が示すとおり防災・災害関係の資料を専門に収集し，閲覧提供する図書館です。1956年７月に東京都千代田区日比谷公園にある市政会館内で開設しました。1959年からは千代田区平河町に移転し，現在に至っています。徒歩10分の距離に国立国会図書館があり，最寄り駅の東京メトロ永田町駅からは徒歩４分とアクセスのよい立地です（図１）。

当館では，「災害」を「人に災いを及ぼすもの」と広く捉えています。そのため，地震や水害などの自然災害だけでなく，交通事故・公害・労働災害・農業災害・戦災といった人為災害も収書対象としています（図２）。

これほど幅広く防災関連資料を収集している図書館は，国内では他に類がないため，当館のパンフレットには「防災・災害に関する唯一の専門図書館です！」と大きく掲げています。

運営母体は公益社団法人全国市有物件災害共済会で，当会常務理事が館長を兼務し，現スタッフは職員３人（うち司書２人）と派遣職員１人の４名です。

やの ようこ
公益社団法人全国市有物件災害共済会
防災専門図書館，司書・学芸員・博士（史学）
主な著作：
・「専門図書館でのインターンシップ：人材育成の一手段として」『図書館雑誌』110巻５号，2016年.
・「れふぁれんす三題噺(その262)防災専門図書館の巻 防災・災害情報の水先案内人として」『図書館雑誌』113巻3号，2019年.

図１　日本都市センター会館（図書館は８階）

図２　防災専門図書館閲覧室（閉架式）

「三人寄れば防災の知恵」——資料収集と独自分類

当館の蔵書16万冊は，防災の知恵の宝庫です。その収書方針は「災害，防災に関する資料を次に掲げる順序により広く収集するものとする」（防災専門図書館規程細則第２条）としており，その優先順位は上位から基礎資料，補足資料，災害・防災に関心を寄せさせるもの，としています。つまり，災害・防災に関係する資料なら基本的には全てが収集対象となります。

資料の収集業務は，さまざまな機関の発行情報，毎朝のニュース等を丁寧に探し，依頼状を出すことから始まりますので「地道」の一言です。このようにして収集した当館の蔵書は７割が寄贈資料から成り立っており，流通にのらない灰色文献も多く，専門図書館らしい資料群となっています。

当館OPAC（オンライン蔵書目録）に書誌データを登録する際には，図書はもちろん雑誌も蔵書検索しやすいように目次やキーワードを付与しています。また，同義語を設定して，できるだけ蔵書検索でヒットしやすいようにしているので，例えば「3.11」で検索しても「東日本大震災」関係本にすべてヒットします。このように登録の工夫を重ねることで，多くの蔵書にアクセスが可能になっています。

そうして収集した資料は当館独自の分類順に従って分類していきます（表１）。

本稿では，本誌の読者の関心が強いと思われる「鉱・工業災害（６分類）」について紹介します（表２）。

雑誌では，本誌『労働の科学』（大原記念労働科学研究所）は1967年22巻１号から最新号までを所蔵しています。また，『労働科学』（同上）は1947年22巻４号から最新号まであります（欠号あり）。このほか，『安全と健康』（中央労働災害防止協会）は，その前誌『働く人の安全と健康』『労働衛生』『安全』を含めると1960年11巻７号から最新号まで，『安全センター情報』（全国労働安全衛生センター連絡会議）は，1991年153号から最新号まで所蔵しています。

図書では，『労働安全衛生研究』（労働安全衛生総合研究所）を初号から最新号まで，『労働白書』『厚生労働白書』は平成２年版からの所蔵となっています。この他にも『労働者災害補償保険事業年報』は昭和32年度から所蔵しています（欠号あり）。また，『労働安全衛生法令図説便覧』『労災保険法実務総覧』『現行労災補償実務要覧』等の加除資料も所蔵しています。

具体的に労働災害の一つ「アスベスト」問題で蔵書検索すると，図書で136件，雑誌記事で199件ヒットします（2019年７月現在，「石綿」と同義語設定）。また，鉱害の一つである「足尾鉱毒事件」については，田中正造に関するものを含めると255件ヒットしました（「足尾鉱毒事件」「田中正造」「谷中村」で同義語設定）。

労働災害の分類は，地震や水害といった自然災害に比べて，当館の蔵書と認知されづらいのですが，さまざまな資料を収集していますので，ぜひご利用ください。蔵書検索は，当館HPから可能です。

表１　防災専門図書館分類表（大分類）

000	災害一般（気象及び災害史を含む地方史）
100	火災
200	風水害・雪害
300	地震・噴火・津波
400	交通災害
500	農業災害
600	鉱・工業災害
700	公害（環境・放射能汚染を含む）
800	戦災
900	その他一般

表2　鉱・工業災害分類表（分類6）

600	総記	630	労働災害一般
601	理論・学説	631	労働災害補償・保険・判例・認定
602	歴史・地理	632	労働安全運動 身障者問題・安全対策
603	書目・辞書・便覧・年表	633	労働科学
604	論文・講演・随筆・雑記	634	労働行政
605	年鑑・紀要・逐次刊行書	635	海運・船舶労働災害
606	学会・協会・団体・会議	636	婦人・年少労働問題・高齢者労働災害
607	研究・指導法	637	山林・農業労働災害
608	叢書・全集・講座	638	公務員等災害・通勤災害
609	法令・条例・安全基準	639	労働問題一般
610	鉱業災害一般	640	鉱・工業災害予防対策
611	鉱山災害	641	鉱山保安
612	鉱毒・鉱害問題	642	工場安全（高圧ガス・機械安全対策）ロボット
613	炭鉱災害	643	職業病（白ろう・アスベスト等を含む）
614	鉱煙問題	644	衛生・医療管理 VDTストレス対策
615	鉱山病害	645	土木・建設業（工事）安全対策
620	工業災害一般	650	鉱・工業災害救済
621	工場災害	651	リハビリテーション
622	工場安全運動	660	鉱・工業災害補償・賠償
623	土木建築安全運動	670	鉱・工業災害史（誌）〔地理区分する〕
624	機械・施設災害（ビル等）	680	鉱・工業災害統計及報告〔地理区分する〕
625	建設工業災害	690	鉱・工業災害図録〔地理区分する〕

「備えあれば嬉しいな」――企画展

災害対応の第一は「備え」です。それは防災グッズや災害食，耐震のための家具固定用品といった物理的なものだけでなく，過去の経験や最新の情報といったものも該当します。どちらも大切な「備え」であり，命を守る要となります。その「備え」について，当館の蔵書を利用して伝える機会としているのが企画展です。

当館では，2014年から年に1～2回企画展を開催しています（表3）。初めて実施した新潟地震，その後の阪神・淡路大震災，東日本大震災，カスリーン台風といった過去の災害を扱った企画展と，熊本地震のように発災して間もなく開催した企画展とがあります。

展示を企画する際，最も大切にしているのが，過去の災害の情報・経験を伝えたうえで，「いま自分がその災害にあったら，どのようにすべきか」という防災の知恵も持ち帰ってもらうことです。そのため，展示は両方の視点を合わせ持つように企画しています。

例えば，震度7が創設される契機となった福井地震の企画展では，被害の様子を伝えるとともに，耐震建築の歴史や（図3），家庭内での耐震グッズの紹介をしたり，感震ブレーカーのデモ機を業者から借りて実際に体験したりしてもらいました。また，風水害を扱ったカスリーン台風では，ハザードマップを利用した展示を行い，3D地形図と合わせて説明することで，防災意識の向上に努めました（図4）。

表3に挙げた大型の企画展以外にも，桜島

図３　耐震建築の歴史（解説と関連蔵書）

図４　各区の荒川ハザードマップを繋げた展示
（そばにハザードマップと３D地図を展示）

噴火，福知山線列車脱線事故といったミニ企画展を開催し，他にも2018年の西日本豪雨，北海道胆振東部地震では，災害発生直後から入手した最新情報を次々に展示しました。

本年９月からは，1959年に伊勢湾台風が襲来してから60年となるので，企画展「スーパー台風襲来!?――伊勢湾台風から60年 高潮災害を考える（仮）」を開催予定です。伊勢湾台風は過去の災害ですが，高潮災害そのものは台風21号で関西国際空港が浸水したように，現在でも起こる災害です。その備えについての展示も合わせて行う計画です。

「逃げるが価値」――防災いろはかるた

当館オリジナルコンテンツ「防災いろはかるた」は，2015年に初めて27枚のかるたを作成して公表し，現在45枚まで増えています。

世の中にはさまざまな防災かるたがあり

表３　企画展開催一覧

No.	開催期間	企画展	関連災害	災害発生日
1	2014.6.16～30	1964年新潟地震	新潟地震	1964.6.16
2	2015.1.14～2.27	阪神・淡路大震災から20年 ――都市で起こりうる災害を考える	阪神･淡路大震災	1995.1.17
3	2016.3.1～5.31	東日本大震災から５年 ――資料からみた復興への途上	東日本大震災	2011.3.11
4	2016.8.15～10.31	平成28年・明治22年熊本地震 ――「ゼロの阿蘇」写真展＆防災専門図書館企画展	明治22年／ 平成28年熊本地震	1889.7.28／ 2016.4.14, 16
5	2017.4.10～5.31	熊本地震の現在（いま）	平成28年熊本地震	2016.4.14, 16
6	2017.9.1～12.28	首都圏水没!? ――カスリーン台風から70年	カスリーン台風	1947.9
7	2018.6.20～12.28	震度７の連鎖：首都直下地震を考える ――福井地震から70年	福井地震	1948.6.28
8	2019.5.7～8.9	平成の災害史（朝日新聞社報道写真特別展示を含む）		
9	2019.9.1～（予定）	スーパー台風襲来!? ――伊勢湾台風から60年　高潮災害を考える（仮）	伊勢湾台風	1959.9.26

ますが，当館のかるたの特徴は，諺が元ネタになっていることです。防災について考えるということは，誰もが必要なことだと感じてはいても，それを考え実行するとなると腰を上げる方はまだまだ多くはありません。むしろ敷居が高いと感じられる方のほうが多いように思います。そのような方々にとっても，「防災いろはかるた」は諺をもじったことで「クスッ」と笑いつつ，知っている諺なので身近に感じられる，そのようなコンテンツとなっています。

ちなみに，本稿の各タイトルにも「防災いろはかるた」を使ってみました。「三人寄れば防災の知恵」の元の諺は「三人寄れば文殊の知恵」，「備えあれば嬉しいな」は「備えあれば患（憂）いなし」，「逃げるが価値」は「負けるが勝ち」です（図５）。

かるたは当館HPでPDF版を公開しています。どなたでも無料で使用でき，サイズは可変です（商業利用不可）。

また，絵柄を変えたい方にはパワーポイントのデータを提供していますので，メールでご連絡ください。絵柄を自館・自社のオリジナルキャラクターや地域の災害関連の写真に変更することが可能です。これまで，防災関連のイベントや展示等で多くの団体に使用していただいています。

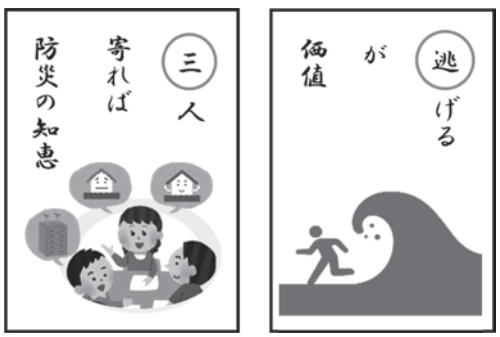


図５ 「防災いろはかるた」

「災害は忘れてなくてもやってくる」――おわりに

上のタイトルは「災害は忘れた頃にやってくる」が元ネタになっています。日本に住む限り，残念ながら自然災害と縁が切れることはありません。交通事故・環境問題といった人為災害も同様です。そして，近年の災害の頻度をみると「忘れた頃」ではなく，「忘れてなくても」災害に遭っているように感じます。

当館では，利用者の方に防災・減災の情報をお伝えできるよう，毎日ニュースを確認し，学会・防災のイベントに参加して最新情報を得ることに努めています。今年は，10月19・20日に名古屋市で開催される「ぼうさいこくたい2019（防災推進国民大会）」に出展します。

減災社会を目指す日本において，当館の役割の重要性を認識しつつ，資料と情報の収集・保存に努め，多くの利用者に提供していきたいと思います。

防災専門図書館

〒102－0093
東京都千代田平河町２-４-１
日本都市センター会館８階
TEL：03-5216-8716
Mail：lib.bousai@city-net.or.jp
HP：https://www.city-net.or.jp/library/

病院図書室　患者さんの診療を支える

和気　たか子

はじめに

病院に図書室があることはご存知でしょうか。病院に行かれたとき「本箱があった」「雑誌が小さい机に並べられていた」「小説が並んでいるコーナーがあった」「入院したら，ワゴンに本を乗せて貸出をしていた」「医療相談室に病気に関するパンフレットや本があって自由に見られた」と，このような体験をされた方はいると思われます。このほか，患者さんに医学・医療情報を提供する図書室を持つ病院もあります。

また，主に病院職員を利用対象とし，医学資料をそろえた図書室を持つ病院もあります。職員用の図書室は患者さんのあまり行かないところに設置されていることが多いので知られていません。病院図書室と一口で言ってもさまざまな目的･形態で存在しています。

わけ たかこ
藤沢市民病院図書室 司書

病院図書室とは

利用対象と資料の内容から分類しますと図１のようになります。

実際にはこの４つに明確に分類できる図書室ばかりではありません。AとBの要素を持つ，職員用図書室でありながら患者さんにも公開している図書室，BとCの要素を持ち患者図書室と称し医学書と一般書を患者さんに提供する図書室もあります。AからDの要素の組み合わせ，その要素の比率もさまざまです。同じ病院内にAとB，AとC，AとBとCが別々に設置されている病院もあります。

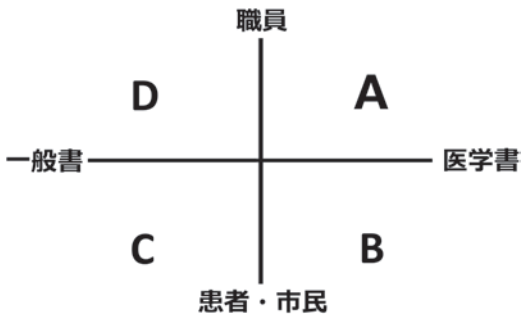


図1　利用対象者と資料内容による病院図書室の分類
A：職員用医学・医療情報提供図書室
B：患者用医学・医療情報提供図書室
C：患者用一般書提供図書室
D：職員用一般書提供図書室

職員用病院図書室

病院とは医療法第１条の５で「20人以上の患者を入院させるための施設を有するものをいう」[1]と規定されています。

2018年12月現在，日本には8,357病院があります[2]。しかし，そのすべてに図書室があるわけではありません。

法的には1996年の医療法の改正で総合病院が廃止されるまでは総合病院と称するための要件の一つとして図書室を有することとなっていました。○○総合病院と称する病院または病院の種類としての総合病院には図書室がありました。改正後は地域医療支援病院と称するための要件の一つとして図書室を有することとなっています。医療法第４条の１で「当該病院の建物の全部若しくは一部，設備，器械又は器具を，当該病院に勤務しない医師，歯科医師，薬剤師，看護師その他の医療従事者（以下，「医療従事者」という。）の診療，研究又は研修のために利用させるための体制が整備されていること」とされ，医療法第４条の６では「その施設の構造設備が第21条第１項及び第22条の規定に基づく厚生労働省令並びに同項の規定に基づく都道府県の条例で定める要件に適合するものであること」[1]，また，第22条の８に地域医療支援病院に備えるべき施設として「図書室」が挙げられています[1]。

2018年９月現在，日本には586の地域医療支援病院があります[3]。ゆえに586の研究または研修のため図書室が存在することになります。

さらに，日本には病院図書室の職能団体として「日本病院ライブラリー協会」があります。日本病院ライブラリー協会の2017年度の会員現況調査[4]には「調査結果中央値からみた平均的な図書館像」（表１）が示されています。調査は2017年６月～７月に167施設に対し行われ，回答のあった80施設（回答率47.9%）の結果です。具体的に図書室の広さ・蔵書数・予算・司書の配置などのガイドラインが公的に示されたものがないことから各病院の理念により運営されています。そのため，病院間で格差があり，平均値ではなく中央値から見た図書館像を表しています。

表１　調査結果中央値からみた平均的な図書館像

面　積	104.5㎡
座席数	12.5席
職　員	１名
蔵書数	単行書　4516冊 製本雑誌　4929冊
年間受入資料	単行書　129冊 雑誌［冊子体］和77.5誌　洋８誌 ［単独オンライン］　洋17誌
電子リソース	医中誌Web版 PubMed メディカルオンライン
相互貸借件数	他施設への依頼　260.5件 他施設からの受付　121件
病床数	472.5床

「調査結果中央値からみた平均的な図書館像」[4]より抜粋

近年では，冊子体（紙）での資料の購読は減り，とりわけ，雑誌は国内も外国も電子ジャーナルの導入の傾向があります。また，多忙の医療従事者のために個々の雑誌論文を多く読まなくても短時間で吟味された医学情報が得られる臨床支援ツール（電子）の導入も進んでいます。電子資料の導入は医療従事者が現場での疑問を図書室まで来なくても病院内のインターネット端末からアクセスしその場で解決することができるようになり，さらには病院外や個人のモバイル機器からもリモートアクセスできるようになって場所を選ばず研究・研修・教育にもさらに役立つようになってきています。

日進月歩で進化している医学に対し，このように職員用図書室も進化しながら情報を収集し医療従事者に提供し，患者さんの診療を支えています。残念ながら地域医療支援病院は当該病院以外の医療従事者は利用対象とし

ていますが，患者さんや一般市民まで利用対象としている病院はまだ少ないようです。地域医療支援病院の指定を受けていない病院も同様です。

課題は医学に特化した専門図書館として職員用図書室を患者さんや一般市民に開放できるか，ということです。物理的に関係者以外立ち入り禁止の管理スペースに図書室があることや，最近では図書室でも患者さんのカルテ（電子カルテ）を見ることができ，個人情報の保護の面からも開放できない図書室もあります。打開策として職員用図書室の司書が関わり合いながら，医学・医療情報を提供する患者図書室を別に設置する病院もあります。

また，職員用図書室を患者さんや一般市民が利用できるかどうか，インターネットでいくつかの病院にアクセスしてみましたが，トップページでアピールしていないことが多くわかりづらい状況でした。

患者図書室

患者図書室は長い間，一般書の提供で入院生活の癒しを目的に設置されてきました。その多くはボランティアの方々によるサービスがほとんどでした。

医学・医療情報を備えた患者図書室が設置されるようになった背景は，平成になりそれまでの医療者お任せ医療から医療者から十分な説明を受け，患者も納得した医療受けるというインフォームド・コンセントという概念が広がり始めたことによります。患者自身も学習し，自己決定するという過程での一助になったからです。1992年の医療法改正時の国会での議論を受けて設置されたインフォームド･コンセントの在り方に関する検討会は，1995年，厚生省に「インフォームド・コンセントの在り方に関する検討会報告書」[5]を提出しています。

その中でインフォームド・コンセントの普及のために医療従事者側の取り組みの一つとして「患者や家族が自分たちの疾患についての情報を得る機会の確保のために施設内に患者向けの図書館等を設置する等の工夫」が提言されています。また，1997年の医療法改正で第１条の４の２に「医師，歯科医師，薬剤師，看護師その他の医療の担い手は，医療を提供するに当たり，適切な説明を行い，医療を受ける者の理解を得るよう努めなければならない」[1]とインフォームド・コンセントについて法的にも明記されました。

また，2006年に制定の「がん対策基本法」は2016年に改定され，その第18条で「国及び地方公共団体は，がん医療に関する情報の収集及び提供を行う体制を整備するために必要な施策を講ずるとともに……」と，がん患者とその家族にがん医療に関する情報の収集及び提供を行うよう規定されました[6]。

日本において医学・医療情報を提供する患者図書室の設置の法的根拠はありませんが，このようにその必要性は広がってきています。前述の日本病院ライブラリー協会では患者医療図書サービス支援事業を展開して患者図書室の開設と運営を支援しています。

ホームページで会員病院患者図書室の紹介があります[7]。紹介の冒頭に患者図書室の形態を６つに分け説明しています（表２）。

表２　患者図書室の形態

独立型	院内に患者専用図書室やコーナーを常設
公開型	院内の職員用医学図書室を公開，または一角を利用して図書コーナーを設ける
併設型	職員用の医学図書室と同じスペースに患者図書室が設けられている
支援室併設型	相談支援室や，相談支援センターなどに，医学・医療図書や闘病記コーナーを設置する
開設型	会議室・多目的ホールなど院内の一定場所を借りて，日時を決めて患者さんに図書を見ていただく
巡回型	ブックトラックやワゴンに本を積んで病棟を巡回

「日本病院ライブラリー協会　患者図書室の紹介」[7]より

表３　患者および市民に対する医学情報提供のガイドライン[9)]

1) 図書館から提供された資料は，決して特定の治療法を薦めているわけではないこと。
2) 提供された資料は，質問に対して，ごく一部分の解答でしかないこと。
3) 提供された資料は，必ずしも患者自身の状態と完全には適合していないかもしれないこと。
4) 提供された資料は，患者が担当医師と，より具体的な討論を可能にする材料として利用してもらいたいこと。

また，全国患者図書サービス連絡会では2016年12月20日現在でホームページに患者図書室の記述がある病院等のリストを掲載しています[8)]。

1995年，スナイダー足立氏のアメリカの病院図書室の患者への情報サービスについての論文[9)]が発表され，その論文に掲載された患者さんからの質問内容を医師に告げないという守秘義務の明記や利用にあたってのガイドライン（表3）はその後の日本の医学・医療情報を提供する患者図書室の運営の参考となっています。これらの内容は患者図書室内に掲示したり，利用案内に書いたり，文言が記載されたしおりを渡したりして利用者に伝えています。

以下に４つの患者図書室を紹介します。

①東邦大学医療センター大森病院 からだのとしょしつ[10), 11)]

医学図書館とは別に病院内に独立して設置されています。病院と大学が連携して医師や看護師のほか医療スタッフと司書で構成された運営委員会により運営・選書がされています。スタッフは必ず司書とボランティアさんとの２名体制とし，無人になることはないそうです。吟味された選書といつでも情報を探す専門の司書がいて相談できることが大きな特徴です。

②天使病院 中央図書室[12)]

ここは公開型で職員用の専門図書・雑誌のほか，わかりやすく書かれた「やさしい医療図書」もそろえ，同じ部屋で公開しています。職員用図書室の専門の司書によるサービスが受けられることが特徴です。

③けいゆう病院 患者図書室 希望－M·M（みなとみらい）[13)]

ここは独立型で職員用図書室と患者図書室は別々に設置されています。職員の司書２名が交代でサービスが提供されています。病院の玄関を入ると吹き抜けになっていて４階を見上げるとガラス張りの図書室があり，大きく「希望－M・M」と書かれ，存在がアピールされています。

④湘南藤沢徳洲会病院 患者図書室 ラベンダー[14)]

こちらも独立型ですが，ドア一つで職員用図書室と患者図書室がつながっています。ただし，入口は別々です。通常はボランティア

写真１　湘南藤沢徳洲会病院 患者図書室 ラベンダー（入口）

写真２　湘南藤沢徳洲会病院（書棚）

写真３　湘南藤沢徳洲会病院 患者図書室「ラベンダー通信」

さんが常駐し，解決できない質問があると司書が対応できる体制だそうです。ボランティアさんと協働で「ラベンダー通信」という図書室だよりも出されています。

今回，湘南藤沢徳洲会病院図書室のご協力で，写真を掲載させていただきました（写真１～３）。

おわりに

病院図書室は大学医学図書館・公共図書館と比べ，規模は小さいですが，存在数が多いことが特徴です。形態が多様化する中で医学専門図書館として今後どうあるべきか問う前に存在を患者さんや市民の方々に知っていただくことが第一歩になるのではないかと思います。

病気や医療に関して知りたくなったとき，利用できる病院図書室もあることを思い出していただき，調べる手段の一つとして加えていただけると幸いです。

参考文献

1) 厚生労働省法令等データベースサービス－法令検索：目次（体系）検索－第２編　医政 第１章　医政　医療法. https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=80090000&dataType=0（参照2019-７-20）
2) 統計のページ　都道府県別医療施設の状況．厚生の指標 2019.6；66（６）：60.
3) 地域医療支援病院の見直しについて（第15回特定機能病院及び地域医療支援病院のあり方に関する検討会　平成30年11月16日　資料１）. https://www.mhlw.go.jp/content/10801000/000404306.pdf（参照2019.7.20）
4) 日本病院ライブラリー協会　第13回現況調査報告書　平成29（2017）年度．ほすぴたる　らいぶらりあん　2018.12；43（４）：188-205.
5) インフォームド・コンセントの在り方に関する検討会報告書，平成７年６月. https://www.umin.ac.jp/inf-consent.htm#sec-list（参照2019.7.20）
6) 厚生労働省法令等データベースサービス－法令検索：目次（体系）検索－第３編　健康 第１章　健康 がん対策基本法. https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=79aa8258&dateType=0&pageNo=1（参照2019.7.20）
7) 日本病院ライブラリー協会　患者図書室の紹介. https://jhla.jp/katudo/kanjatosho/shoukai/（参照2019.7.20）
8) 全国患者図書サービス連絡会.全国の患者図書室リスト. http://kanjatosho.jp/the_list.html（参照2019.7.20）
9) スナイダー足立純子．Englewood Hospital and Medical Center Library における患者への情報提供サービス：Information Therapy．医学図書館　1995；42（２）：138-144. https://www.jstage.jst.go.jp/article/igakutoshokan1954/42/２/42_２_138/_pdf/-char/ja（参照2019.7.20）
10) 東邦大学医療センター大森病院 からだのとしょしつ. https://www.mnc.toho-u.ac.jp/mmc/karada/（参照2019.7.20）
11) 岡田光世.東邦大学医療センター大森病院「からだのとしょしつ」のご案内．薬学図書館　2018；63（１）：10-13.
12) 天使病院 中央図書室. https://tenshi.or.jp/information/facilities/ libraly.html（参照2019.7.20）
13) けいゆう病院 患者図書室 希望－M・M（みなとみらい） http://www.keiyu-hospital.com/activity/hospital/mm/（参照2019.7.20）
14) 湘南藤沢徳洲会病院 患者図書室 ラベンダー https://fujisawatokushukai.jp/hospital/facility/library/（参照2019.7.20）
15) 奈良岡功．総説 患者への医学情報の提供．医学図書館　2004；51（４）：317-329. https://www.jstage.jst.go.jp/article/igakutoshokan1954/51/４/51_４_317/_pdf/-char/ja（参照2019.7.20）

エル・ライブラリー（大阪産業労働資料館）

働く人々を支え，記録と記憶を未来へつなぐ

谷合 佳代子

ささえあう図書館として

エル・ライブラリー（大阪産業労働資料館）は，狭いながらも大阪を中心とする関西の社会労働運動の一次資料を数万点所蔵する，MLA（Museum, Library, Archives）融合型図書館である。

2019年10月に開館11周年を迎えるが，資料の収集は法人（大阪社会運動協会。以下，社運協）創立の1978年から始められているので，40年にわたるアーカイブの成果を誇る。

その間には，大阪府の労働図書館を８年間受託運営していたが，利用者を４倍に増やすという成果を生んだにもかかわらず，2008年の橋下知事就任とほぼ同時に廃止が決まり，法人資料室である「大阪社会運動資料センター」への補助金も全廃となった。

ここにしかない貴重な地域資料を次世代に引き継ぐという使命を全うするため，社運協は2008年10月，新たにエル・ライブラリーという私立図書館を立ち上げ，役職員が身銭を切り，ボランティアスタッフの助けを受け，労組・企業や市民の寄付によって10年余り，運営を続けてきた。

入居している大阪府立労働センターの家賃も２倍に値上げされ，ますます財政的には厳しくなっているが，多くの支援者によって支えられ，また，利用者を情報の力で支える図書館として活動を続けている。

たにあい かよこ
公益財団法人大阪社会運動協会 大阪産業労働資料館 館長

主な著書：

- 『ささえあう図書館――「社会装置」としての新たなモデルと役割』（共著）勉誠出版, 2016年.
- 「エル・ライブラリー（大阪産業労働資料館）のデジタルアーカイブとデータベース」『コンピュータ＆エデュケーション』44号, 2018年.
- 『大阪の社会運動史と労働者の自由』（共著）関西大学経済・政治研究所，2017年.

蔵書構成

2019年７月現在の当館の蔵書数は６万冊，新聞・雑誌2,800タイトル６万点，文書資料は未整理のものも含めて書架延長200m以上ある。その他に視聴覚資料600件，博物資料数百点を所蔵している。

日本で労働問題が発生して以来の資料を収集しており，20世紀以降の資料がほとんどである。

主なコレクション

まず，主なコレクション（文庫）を紹介する。図書館では「文庫」扱いとするコレクションについては旧蔵者が収集した資料の全てを一

括して受贈し，原則として他の資料と混配しない。すでに所蔵している資料との複本があっても廃棄しない。しかし，当館では書庫の狭隘化が財政難に拍車をかける状況となったため，このような原則に拠る「文庫」の扱いを約10年前から廃止し，文庫扱いとしていた図書についても複本など希少性の低い資料を除籍している。

したがって，ここに紹介する文庫についてはもともとのコレクションの原秩序をとどめていないものもあることをお断りする。

①中江文庫

中江平次郎（1919–1999）寄贈。社運協初代理事長で総評大阪地方評議会議長などを歴任した中江の蔵書のうち，図書3,637冊，新聞・雑誌442タイトル，原資料4,896点を登録した。未整理の文書資料（アーカイブズ資料）については書架延長60m分。図書は知識のほぼ全分野に及ぶが，当館では希少性を勘案して，また労働関係に特化したものだけに限定するよう，現在除籍作業を進めている。

②高田文庫

高田鉱造（1904–1997）寄贈。1928年に共産党員となり，同年検挙されて服役。図書2,108冊，新聞・雑誌約100タイトル。ほとんどの出版年が1945年以降であり，労働法令協会勤務時代に収集した労務管理・労働問題の図書や専門雑誌である。特筆すべきは，1960年前後の一時期に限定されてはいるが，諸企業の就業規則や労働協約のコレクションがあること。就業規則現物を所蔵している図書館は少ないので，50冊程度ではあるが貴重な資料といえるだろう。

③田万文庫

田万清臣（1892–1979）旧蔵資料。妻の田万明子（1898–1988）が寄贈した。夫婦ともに社会運動に貢献した人物である。田万清臣は弁護士として労働事件を1,000件扱ったといわれ，社会大衆党から大阪市議，代議士になり，戦後は右派社会党員。田万事務所には労働者たちが隠すために持参した発禁本が多く収集され，戦後まで土蔵の中に隠匿されていた。それらの資料2,000点以上のうち，台風被害を免れた350冊ほどが田万コレクションとして現在まで伝わる（写真１は田万文庫の一部）。

④河本文庫

河本乾次（かわもと・けんじ。1898–1982）旧蔵資料。河本は大正昭和時代に活動したアナキストで，資料は死後に遺族から寄贈された。アナキズム関係の図書・雑誌・書簡・文書などを多く含む。図書雑誌は約1,000冊，書簡やノートなどの文書資料（アーカイブズ資料）は文書箱４函分。

⑤北野文庫

北野照雄（1906–1989）寄贈資料。北野は1927年頃からプロレタリア演劇運動に関わ

写真１　田万文庫の一部

写真２　北野文庫のポスター

り，共産党に入党。戦後も文化運動に携わる。数は多くはないが，戦後まもなくの文化・社会運動のポスターや会議録などの文書資料を寄贈された（写真２は北野文庫のポスター）。

主なアーカイブズ（文書資料）

当館の資料は図書・雑誌・視聴覚資料以外に，20世紀初頭からの労働組合，社会運動団体，市民団体，NPO等の内部文書（アーカイブズと呼ばれる）を多数含む。公文書と違って，労組や市民団体の記録は当該組織・コミュニティのアーカイブズ機関（または機能）が存在することが稀であり，日々失われていくものである。こういったコミュニティ・アーカイブズは金と権力を持たない民間の人々によって生み出されることが多く，保存と将来の利活用に向けた展望が見えにくい。

このようなアーカイブズを収集することが，当館の任務である。歴史は権力者だけがつくるものではなく，史料のなかに草の根の市民･労働者が生きた証が必ず残されている。それらを今の世代が活用し，さらに次世代に残すことによって，歴史理解に役立てることができる。

そのような意義を持つ当館のコレクションは，『大阪社会労働運動史』（既刊９巻）（写真３）編纂のための一次資料を核にしている。もともと当法人は『大阪社会労働運動史』を編纂発行することを大きな目的として設立された。現在も第10巻（記述対象は概ね2000年～2020年）刊行に向けて新たな編纂作業を開始したところである。

当館の一次資料の大部分を占めるのが戦後大阪の労働組合の記録である。文書資料には組織アーカイブズと個人アーカイブズ（労組役員が残した資料）とがある。以下，主なものを列記する。

①組織アーカイブズ（解散に伴う移管）
- 大阪総評
- 大阪同盟
- 全国金属労働組合大阪地方本部
- 三洋電機労働組合
- JAMオムロン労働組合
- 民社党大阪府連合会書記局
- 大阪軍縮協（原水爆禁止全面軍縮大阪府協議会）（複製）

②組織アーカイブズ（継続中）
- 連合大阪
- 労働者福祉中央協議会（電子版）

③個人アーカイブズ
- 中江平次郎寄贈総評大阪地評関係資料（写真４）
- 辻保治旧蔵・近江絹糸労働組合彦根支部関係資料
- 山田耕作寄贈大阪府立旭高校勤評闘争資料
- 北野照雄寄贈戦後文化運動資料
- 河本乾次旧蔵アナキズム資料

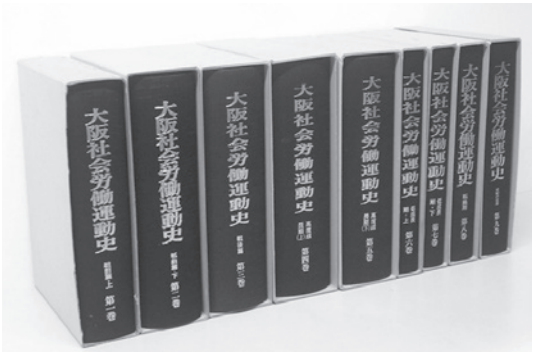


写真３　第10巻編纂作業中の『大阪社会労働運動史』

写真４　中江平次郎寄贈総評大阪地評関係資料

・大矢勝寄贈国労争議団資料
・伍賀偕子寄贈総評大阪地評婦人協議会資料
・平坂春雄寄贈全港湾関西地方本部関係資料

Webで利用できる情報

図書，雑誌，文書資料などの文献以外には労働組合旗，ポスター，ヘルメット，バッジ（写真５はバッジコレクションの一部）など博物資料も所蔵している。

また，Webサイトで利用できる情報については，コンテンツそのものを閲覧できる場合と，メタデータ（書誌情報や索引など）のみの場合の２つに分かれる。それぞれを簡単に述べる。

⑴　メタデータのみ

①OPAC（蔵書検索）

登録済みの資料についてのみ検索できる。文書資料（アーカイブズ）のほとんどが検索できないのが現在の欠陥である。

②雑誌記事索引

・http://l-library.hatenablog.com

ブログで毎週更新している。当館で閲覧できる最新の労働・労務管理専門雑誌の記事索引を館長補佐・千本沢子が作成し，さらにその中から３～４本を厳選して「今週の注目記事」としてメールマガジンに掲載。

③大阪毎日・大阪朝日新聞記事データベース

・http://shaunkyo.jp/webdatabase/osakamainichi.php
・http://shaunkyo.jp/webdatabase/osakaasahi.php

社運協は，『大阪社会労働運動史』編纂の基礎資料として，1887年から1989年までの『（大阪）毎日新聞』と『（大阪）朝日新聞』の記事索引を作成した。手書きで作成された索引を電子化し，検索できるようにして公開中である。公開しているのは明治・大正・昭和戦前期のみであり，大阪の社会・労働問題に関する記事だけを選んでいる。朝日新聞社の「聞蔵」と毎日新聞社の「毎索」とは底本が異なるため，新聞社のデータベースでヒットしない記事が多く含まれる点が特長である。

写真５　バッジコレクションの一部

④オーラルヒストリー音声データベース

・http://shaunkyo.jp/webdatabase/lat.php

当館所蔵のオーラルヒストリー（聞取り調査）テープのうちデジタル化済みのものの一覧。社会労働運動関係者にインタビューを行った記録。そのうち多くはテープ起こしされ冊子にまとめられている。大阪市立大学との連携により音声のデジタル化とデータベース作成が実現した。

⑤労働組合旗デジタルアーカイブ

・http://shaunkyo.jp/webdatabase/object.php

所蔵する博物資料のうち，労働組合等の旗（1920年頃から現在まで）66旒のメタデータとサムネイル画像が閲覧できる。大阪市立大学との連携によりデータベースを作成した。

⑵　メタデータとコンテンツを備えたもの

デジタルアーカイブとして公開しているのが「労働史オーラルヒストリー・プロジェクト」である。

・http://shaunkyo.jp/oralhistory/

労働史の分野におけるオーラルヒストリーを収集，整理，保存することを目的として，2015年12月に当館のWebサイト上で公開された。これはまた科学研究費助成事業「戦後労働史研究におけるオーラルヒストリー・アーカイブ化の基礎的研究」（基盤研究（B），2333011, 梅崎修研究代表, 2011～2014年度）の成果でもある。

現在のプロジェクト参加メンバーは梅崎修（法政大学キャリアデザイン学部教授）を代表とする科研費プロジェクトの研究者７名と，エル・ライブラリーのスタッフ３名である。コンテンツによってはこれにさらにボランティア司書・学芸員が加わる。

動画とテープを起こした文字情報からなるコンテンツについては徐々に増やしており，2019年７月現在，７つのコンテンツを公開している。

研究図書館として

このように，当館資料には団体の内部文書が多く含まれるため，労働安全衛生関係の資料を探している利用者にとっては，特に労組の資料の中に，それらが含まれていることが多く，一次資料として活用できる。労組資料の中には会社の資料が含まれていることもあり，就業規則や安全に関する労働協約などを見れば，当該企業での労働安全衛生の取り組みの跡を調べることができる。

例えば写真８は1921年（大正10年）の藤永田造船所争議の嘆願書原本であるが，ここには便所設備の非衛生さや食堂未設置による不潔な状況が書かれており，それらの改善が嘆願項目としても挙げられている。

また，中江平次郎寄贈総評大阪地評関係資料の中には，「労働災害・安全衛生 」「労働災害･職業病」などと題されたファイル（簿冊）が５冊あり，内容は1947年～1970年頃の労

エル・ライブラリーの基本情報と利用案内

住　所：〒540–0031
　　大阪市中央区北浜東３–14 エル・おおさか４F
電　話：06–6947–7722
運　営：公益財団法人大阪社会運動協会
開館日：平日の火曜～土曜。
開館時間：10時～17時。毎月第１，第３金曜は20時まで。
休館日：日曜日，月曜日，祝日。月曜が祝休日の時，その直前の土曜日。10月15日，年末年始，夏季休業日。臨時休館あり。
要予約：ほとんどの資料が書庫内にあります。書庫内資料の利用については事前に予約を。また，初めて来館される場合もできるだけ事前に連絡してください。
サポート会員募集中：運営を支える寄付会員を常時募集中です。年会費１口5,000円。税額控除の対象となる寄付です。会員になると資料の貸出，書庫内立ち入りができ，夜間に図書室貸し切りで勉強会を開催することも可能です。

写真６　閲覧室と雑誌配架台（手前は古本市の文庫本）

写真７　会議や勉強会にも使用する第５書庫

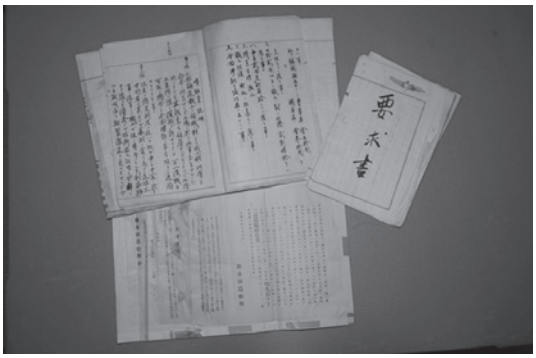


写真８　藤永田造船所争議の嘆願書原本

働組合が作成した文書などである。

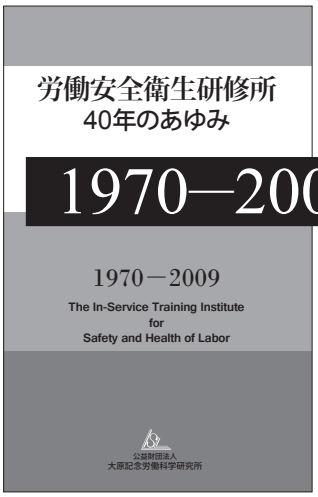
このように，一次資料が豊富であることは，研究資源としての活用の方途が広がっていることを意味する。この10年間に科研費を含めた研究助成金を利用する研究プロジェクトは７件実施し，現在も２件が進行中である。直接的な研究対象とならない場合でも，当館資料を援用した研究プロジェクトや，市民・労組向けの講座などへの活用についても，随時行っている。

次世代につないで

現在，当館では書庫の狭隘化が進み，これまで永久保存としてきた蔵書についても除籍する必要に迫られている。他の公共図書館が所蔵している図書・雑誌については除籍対象とし，資料の主題も労働問題に特化していく予定である。それにより，希少性の高い資料群を集中的に収蔵し，その組織化を進め，資料の「見える化」に向けて，デジタル画像と解説文書をWeb公開していく。

極端な財政難が続く現在，果たしてその貴重な資料をいつまで持ち続けることができるだろうか。さらに，次世代の人材育成が大きな課題となっている。多くの方々の支援をお願いする次第である。

大阪の地で「労働安全衛生大学」開講から 40 年にわたった
講師団と労働者の熱意が呼応した一大研修事業の意義と全体像



労働安全衛生研修所
40年のあゆみ
1970—2009

編集：「労働安全衛生研修所 40 年のあゆみ」編集委員会

最新刊！

第１部　40 年のあゆみ
労働安全衛生研修所のあゆみ／三戸秀樹

第２部　40 年をふり返って
江口治男／圓藤吟史／金澤 彰／金原清之／桑原昌宏／小木和孝
近藤雄二／佐道正彦／徳永力雄／中迫 勝／藤原精吾／水野 洋

第３部　議事録・名簿
総会・理事会・評議員会議事録／歴代役員一覧／歴代顧問一覧
歴代講師一覧／修了者数年次推移・団体別推移

第４部　資料
関連文書：財団法人労働安全衛生研修所設立趣意書ほか／梶原三郎
講座募集案内：1970 年度／ 1999 ～ 2001 年度／ 2008 年度
国立生命科学センターの提唱：1978 年 8 月
研修所 30 年のあゆみ 1970 ～ 2000 日本語版：2000 年 3 月
運営資料

〒 169-0073
新宿区百人町 3-23-1
桜美林大学キャンパス内 1F
TEL：03-6447-1435
FAX：03-6447-1436

公益財団法人
大原記念労働科学研究所

図書コード ISBN 978-4-89760-335-3 C 3047

体裁　A4 判函入上製 180 頁
定価　本体 2,500 円＋税

東北大学附属図書館震災ライブラリー

図書館共同キャンペーン「震災記録を図書館に」で震災資料を収集・公開

より活用し，日常とつなぐために

小林 真理絵

「震災記録を図書館に」発足

2011年３月11日に発生した東日本大震災の後には，被災地にある図書館を中心に，震災に関する事柄を記録した資料の収集が自発的に始まった。1995年の阪神・淡路大震災に際し，神戸大学附属図書館を始めとして行われた資料収集の取り組みに影響を受けたものである。2016年に発生した熊本地震においても，被災地の図書館で同様に震災資料の収集が行われている。

震災資料収集の意義として，震災の全貌を後世に伝えること，二度と災害を繰り返さない教訓を伝えること，当時の世相を記録するということが挙げられる。

東日本大震災はあまりにも広域にわたり，地震・津波・原発と記録すべき資料群が多いため，単独の図書館だけで収集することは困難であった。そこで，他の図書館と協力して資料を収集することとなった。特に，市販されていない資料を収集するために図書館の取り組みに対する認知度の向上が必要であり，「震災記録を図書館に」を合言葉とした合同キャンペーンを東北大学附属図書館が中心となって実施した。

写真１　ポスター

2012年３月に発足した「震災記録を図書館に」キャンペーンは，岩手県立図書館，宮城県図書館，福島県立図書館，仙台市民図書館，岩手大学図書館，東北大学附属図書館，福島大学附属図書館，および神戸大学附属図書館の８館が参加している（神戸大学は阪神・淡路大震災に関する資料を収集）。具体的には，

こばやし まりえ
東北大学附属図書館総務課学術情報基盤係

写真２　千羽鶴（東北大学附属図書館所蔵）

ポスターの配布（写真１），雑誌への広告の掲載，ホームページの作成などを通して，震災資料の収集･公開の活動を広報するとともに，震災資料の寄贈を広く一般にお願いしている。寄贈いただいた資料は寄贈を受けた図書館で整理，保存，公開をしている。

各館での所蔵資料

震災資料として寄贈を求めている資料は，調査報告書，復旧・復興計画書，フリーペーパー，ミニコミ誌，イベント・セミナー・相談会等のチラシや資料，各種活動記録（ボランティア記録，避難所だよりなど），学校だより，会報，広報誌，個人・団体が作成した文集・体験記・手記など，多岐にわたる。お見舞いとして送られた千羽鶴など立体物を所蔵している図書館もある（写真２）。

このほか，図書や雑誌など，一般に販売されているものについては，各図書館で購入している。広く販売されている図書はある程度時間が経っても収集可能であるが，イベントのチラシなどは，広報期間にしか入手できないものが多く，図書館で収集をしていくことは困難である。この取り組みを広く市民に知っていただくことではじめて網羅的な収集ができると考え，共同キャンペーンとして実施した。

東日本大震災では福島第一原子力発電所の事故により，高放射能区域の住民が全国へ避難した。そのため，「震災記録を図書館に」のポスターは全国各地の図書館へ配布し，館内に掲示していただいている。キャンペーン開始当初は市民の関心も高く，多くの資料を寄贈いただいたが，最近では鈍化傾向にある。各図書館においてはSNSを活用したり，自治体を訪問して寄贈依頼をしたりと収集の工夫を行っている。

収集した資料数は表１の通り。こちらは図書館に所蔵（公開）している資料の数で，この他にも整理途中の資料がある。

表１　各館震災記録の資料数

館名	文庫名	図書（冊）	雑誌（冊）	その他（点）
岩手県立図書館	震災関連資料コーナー	6,696	6,426	16,557
宮城県図書館	東日本大震災文庫	4,628	1,426	3,766
福島県立図書館	東日本大震災福島県復興ライブラリー	11,739	5,928	207
仙台市民図書館	3.11災害文庫	7,282	4,691	169＋α
岩手大学図書館	自然災害関連資料コーナー	3,291	519	3,773
東北大学附属図書館	震災ライブラリー	4,362	1,498	4,816
福島大学附属図書館	震災関連資料コーナー	6,190	168	206＋α

※冊数の起算日は各館で異なる（出典：第10回東日本大震災アーカイブワークショップ（2018年12月開催）の「各館報告書」より
※資料数は購入と寄贈の合算

多くの図書館が，所蔵している震災資料を検索するためのデータベースを構築している。許諾の得られたものについては画像もインターネット上で見られるものもある。

国立国会図書館東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」では，表１の内，岩手県立図書館，宮城県図書館，福島県立図書館，仙台市民図書館の震災文庫をまとめて検索することができる（岩手大学，東北大学の資料についても2019年度内に検索できるようになる見込みである）。

収集・整理をする難しさ

「震災記録を図書館に」は東日本大震災発生から１年後に活動を開始した。それ以前から資料収集に取り組んできた図書館もあるが，発災直後の掲示物（建物の応急危険度判定や，市民への通知など）はすでに廃棄されたものもあり，震災資料を後世へ伝える困難さを感じている（写真３）。

図書館では，資料を所蔵するにあたって，その資料についての「目録」を採っている。「目録」とは，その資料の概要を示すもので，その内容は，著者名，書名，出版年，出版者などである。

震災資料についても「目録」を採っているが，写真については，「いつ」「誰が」「どこから」「どこ」を写したのか，がわからないとタイトルが付けられないため，困難を極めている。チラシやポスターについても，開催年や開催地が省略されていることもあり，いずれの資料においても，発行からすぐに，あるいは寄贈者の足取りがつかめるうちに整理をすることが必要だと痛感している（写真４）。

「東日本大震災アーカイブワークショップ」

「震災記録を図書館に」参加館をサポートするために，震災資料収集・公開に取り組む図書館等の担当者が集まり，情報交換を行う「東日本大震災アーカイブワークショップ」を東北大学附属図書館が事務局となり開催している。「震災記録を図書館に」キャンペーン参加館のほか，賛同・協力機関である国立国会図書館，防災科学技術研究所自然災害情報室，防災専門図書館も参加している。

近年は年に一度集まり，収集済み資料の数や，収集上の工夫，新たな取り組みの内容などについて各館の情報を交換し，課題につい

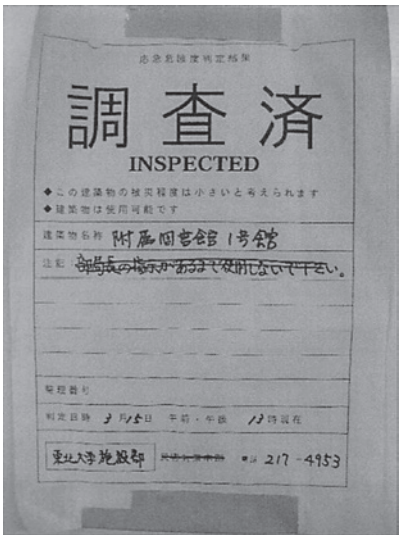


写真３　応急危険度判定結果
現物は廃棄されたため写真だけが残っている
（東北大学附属図書館震災ライブラリーオンライン版）

写真４　寄贈された写真
地元以外の方が被災地を巡るなどで撮影した場合、撮影者に尋ねても撮影地がわからないものもある。
（東北大学附属図書館震災ライブラリーオンライン版）

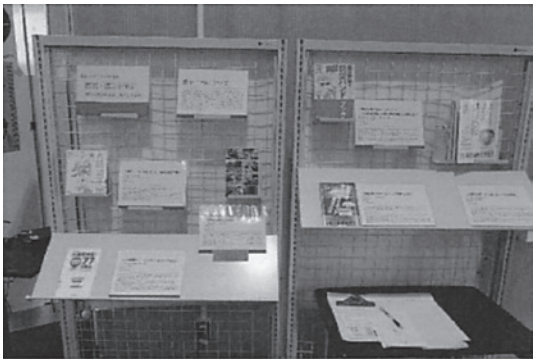


写真５　東北大学附属図書館震災ライブラリーミニ常設展示
学生アルバイトがテーマを決め、キャプションを書いている。毎月入れ替え。

写真６　放送ライブラリー（横浜市中区）**における「東日本大震災福島県復興ライブラリー」出張展示**（福島県立図書館）
東日本大震災をテーマとした番組上映会に合わせて貸し出しを行った。

て相談する場としている。震災から時間が経過するにつれ，資料購入及び公開のための予算措置の廃止や削減を課題としている図書館が多くなってきているが，購入対象の図書について，重点対象を設けるなどの工夫で収集を続けている。

震災資料の活用

最近では，収集だけでなく，利用を促進する活動にも重点をおいている。震災資料を探すためのデータベースを構築したり，震災資料を手に取ってもらうために，市報に震災資料の書評を掲載したり，展示を行ったりと各館で工夫が見られる（写真５）。

岩手県立図書館では，地元の大学との共同研究のテーマとして震災資料が取り上げられた（「岩手県立図書館震災関連資料デジタルアーカイブズとその利活用に関する基礎研究」）。福島県立図書館においては，資料とパネル等の展示セットを用意し，県内外の図書館に貸し出す出張展示を行っている（写真６）。

おわりに

残念なことに日本は災害大国である。前の災害の教訓を次に活かし，被害を抑える――そのために図書館では記録を後世に繋いでいる。被災範囲が大きいほど，その記録も膨大にあり全てを収集することは困難であるため，われわれは市民の力を大いに頼った。それを次に還元したいと考えている。被災後に出された資料をどのように収集するか，どのように整理し公開していくのか。そのノウハウを共有するために，東日本大震災アーカイブワークショップの記録を第10回（2018年12月）から公開することとした。

震災資料から教訓を得る，復興イベントに参加する，ボランティアをする，研究の対象とする等々資料の活用の仕方は無限にある。これらに図書館が役立てれば幸いである。

震災資料をご覧になりたい場合，震災資料を寄贈いただける場合は，「震災記録を図書館に」参加館にお問い合わせください。また，以下のウェブサイトもご参照ください。
http://www.library.tohoku.ac.jp/shinsaikiroku/#kokai

共生のための思想と実践

大原總一郎の場合

(一)

兼田 麗子

はじめに

労働科学研究所の名称は，ベルギーのソルヴェー研究所に所属するイオテイコ女史（Dr. Josefa Ioteyko）の著作“The Science of Labour and Its Organization”に由来する。研究所の初代所長，暉峻義等［1889（明治22）～1966（昭和41）］など創設当初のメンバーが執筆した『労働科学辞典』によると，労働科学とは，「労働する人間についての学問であり，労働する人間の肉体と精神とについて科学的諸原則に立って，経営と労働とをよくする方法を発見する学問」であり，「労働の機械化によって新たに起こってくる，機械的労働の人間生活や労働力に及ぼす影響を研究し，機会の重圧から人間を開放する科学的手段を発見する」ことが，その任務であるという。

この，労働科学研究所を含めて３つの研究所（ほかの２つは，社会問題研究所，農業研究所）を設立した大原孫三郎［1880（明治13）～1943（昭和18）］は，岡山県倉敷の大地主であり，企業経営者であったが，搾取する者と搾取される者，持つ者と持たざる者，という見方・関係を打破したいと考えていた。確かに，いわゆる儲けることの放棄やその社会経済的ポジションを捨て去るという選択は孫三郎にはなかっただろう。「単なる社会改良主義者に過ぎない」や「戦前の倉敷において孫三郎は労働者に対しては，大原家の工場経営に対し，異議申し立てをさせず，農民に対しては，農場経営への参加から遠ざけんと懐柔したのではないか」[1]という指摘もあるが，「何とかしてこの少女たちが健康でしあわせになるよう」な科学的研究を行ってほしいという願いのために，見せたくはなかったであろう自社の紡績工場へ暉峻義等を深夜予告なしで同伴し，工場内の様子を暉峻に見せている。どうにか，いわゆる経済と倫理，私益と公益を両立しながら，共存共栄をはかる途を孫三郎は模索しようとしたのであった。

このような孫三郎の事業や実践を継承した人物が子息の大原總一郎［1909（明治42）～1968（昭和43）］である。2015年９月にニューヨークの国連本部で開催された「国連持続可能な開発サミット」（150を超える加盟国の首脳が出席）において，「われわれの世界を変革

かねだ れいこ
桜美林大学ビジネスマネジメント学群
准教授
大原記念労働科学研究所 特別研究員
主な著書：
・『大原孫三郎――善意と戦略の経営者』中公新書，2012年.
・『戦後復興と大原總一郎――国産合成繊維ビニロンにかけて』成文堂，2012年.
・『大原孫三郎の社会文化貢献』成文堂，2009年.

する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されて以降，特に，SDGs（Sustainable Development Goals）（持続可能な開発目標），持続可能な開発という言葉や概念が日常的に飛び交うようになってきている。

しかし，大原總一郎は，戦後復興期から1960年代半ばにかけてすでに，日本型資本主義というか，社会の在り方，より善き社会を問う中で，公害，経営者の社会的責任，企業の公益性，世界の中の，自然界，生命体の一メンバーとして共生を考えようと発信し，実践を行っていた。孫三郎の目指した「共存共栄」に向けての考えを提示し，警鐘を鳴らしていたのであった。

そこで，今回，労働科学研究所の創立者，大原孫三郎の事業を継いだ大原總一郎の共生についての思想と実践の価値のシェアを試みたいと考えた。当時は，「何を言っているのだろう……どうしてしまったのだろう」と考えられることもあった大原總一郎の考え，問いかけ，警鐘に目を向けることは，現代のわれわれが少しでもより善き社会に向かっていく一助になるのではないか，と考えているためである。

先行研究

多くの時間を机上での執筆にも費やしたといわれている大原總一郎については，『大原總一郎随想全集』（全4巻），東京帝国大学経済学部において経済学博士を取得したときの『化学繊維工業論』，『母と青葉木菟』『夏の最後のバラ』などの書籍が刊行されている。

また，株式会社クラレが，1980年に總一郎の活動の軌跡を丹念にたどった『大原總一郎年譜』（資料編付きの全2冊）を発行しており，創立80周年に当たる本年7月に発行した『創新――クラレ80年の軌跡』の中でも總一郎についてあらためて振り返っている。これらは参考資料として有益である。そのほか，交流のあった人たちによる回顧文なども存在する。

しかし，總一郎の理念や実践について考察した研究は多いとはいえないだろう。總一郎の理念や実践を体系的にまとめた研究としては，山上克己氏の『大原總一郎の経営理念とその実践』（1985年）を挙げることができる。倉敷絹織株式会社に30年以上勤務した山上氏は，この研究に先立って，労働科学研究所機関誌の『労働の科学』に「大原總一郎氏の社会思想――その一断面」を1973年からその翌年にかけて執筆していたが，この研究をまとめるに際しては，前述した出版物とともに，倉敷レイヨン株式会社の管理者向け社内月刊誌『倉敷レイヨン連絡月報』への總一郎の寄稿文をも資料としていた。

また，『大原總一郎随想全集』の編集担当者であった井上太郎氏による『へこたれない理想主義者――大原総一郎』（1993年）（5年後に『大原総一郎――へこたれない理想主義者』として文庫化）は，總一郎の人物像の把握にはとても有効な著作である。。

近年のものとしては，拙著『戦後復興と大原總一郎－国産合成繊維ビニロンにかけて』（2013年）や作家，江上剛氏による『天あり，命あり』（2016年），前述した生田頼孝氏による批判的考察論文（「倉敷の大原家（上）（下）」「戦後史の中の倉敷大原家―戦後日本政治経済史からの批判的考察（上）（下）」『立命館文学』644，647，653，654号）などがある。

大原總一郎の経歴・活動歴

(1) 父，大原孫三郎

さて，本題に入るが，大原總一郎は，大原孫三郎と寿恵子の子息として岡山県倉敷市に誕生した。父，孫三郎についても概観しておこう。地主であり企業経営者でもあった父の孫三郎は，地元の倉敷を中心にして，社会事業にも積極的に関与したことで知られる人物

である。總一郎の父，孫三郎は，最近では，大原美術館を設立したことで一般的にはよく知られているようだが，そのほかにも，倉敷紡績という企業内における福利厚生の充実，倉紡中央病院（現倉敷中央病院）創設，倉敷の人々の啓蒙を意図した倉敷日曜講演の長期間にわたる開催，有志の若者に対する奨学金の提供，研究所を設立しての学術研究への支援，石井十次が運営していた岡山孤児院や柳宗悦たちが推進していた民芸運動への支援など，多面的な活動を民間人の立場から率先して行った[2]。

孫三郎が存命中にはその真意が正しく理解されない場合もあったようであるが，孫三郎が行った実践は，現在まで引き継がれているものがほとんどである。孫三郎は，国民国家が「上」から集中的につくられていた明治・大正という時代に，人間一個人や社会，及び国家，そして世界の幸福や安寧（ここではWell-beingや福祉を全て同義語的に使うことにする）のために，「民」の立場から実践に取り組んだ先駆者であったのである。1939年に孫三郎が倉敷紡績と倉敷絹織の社長を辞任した当時，29歳だった總一郎は，孫三郎が着手し，大きく発展させていったさまざまな活動を，研究・勉強に基づいた独自の見識によって引き継ぎながら「収斂」[3]していった。

⑵ 経　歴

總一郎は，倉敷で幼稚園，尋常小学校を終えると，岡山県立第一岡山中学校，第六高等学校を経て，東京帝国大学経済学部経済学科へ進んだ。大学卒業後の秋には倉敷へ戻り，倉敷絹織株式会社（のちに倉敷レイヨン株式会社，さらには株式会社クラレへと社名を変更）に傭員として入社し，その後，社員に任命され，常務取締役，社長へと就任していった。さらには，倉敷紡績の社長に就任すると共に，その他の関連会社の企業経営にも広く携わった。

戦後の経済復興期に関西経済同友会の代表幹事を務めた大原總一郎は，1961年には「経営者の社会的責任と人間像」という内容の講演を随所で行った。また，1966年には国民生活審議会会長として「将来の国民生活像－20年後のビジョン」を当時の佐藤栄作首相に答申，「産業と公害」と題した論考も積極的に執筆するなど経済と社会・国民生活の相関性を重視する姿勢をとり続けた。

このような活動以外にも總一郎は，岡山孤児院の運営者，石井十次にちなんだ石井記念愛染園の理事長，日本フェビアン協会の理事，日本民藝協会の常任理事，会長，及び理事長，大原美術館の理事長にも就任するなど，企業経営者でありながら，企業，国家，文化，教育，福祉，地域，環境，という数々の分野で働き，メッセージを発信した。そこで，總一郎が関わった分野を，役職を基にして以下に列挙してみることにしよう。

まず，企業や国家の経済的機関に関係するものとして，関西経済同友会の代表幹事をはじめ，物価庁次長，経済団体連合会理事，国民生活向上対策審議会委員，国民経済計算審議会委員，国民生活向上対策審議会会長（後に国民生活審議会と改称），経済審議会委員，大阪国際博覧会準備委員会テーマ委員，二十一世紀の日本特別委員会委員（座長）を挙げることができる。

次に，財団法人大原美術館の理事長，倉敷文化連盟顧問，日本民藝協会常務理事・会長，財団法人日本民藝館理事長，岡山県民藝協会会長，日本ユネスコ国内委員会委員，日墺協会会長，関西交響楽協会理事，NHK交響楽団顧問，日本鷹狩クラブ理事，日本放送協会経営委員といった文化・美術・音楽・国際交流の側面でも働いた。

そして，研究や教育という分野に目を向けると，労働科学研究所の理事以外にも，大原農業研究所の理事，日本フェビアン協会理事，日本フェビアン研究所の設立，財団法人法政大学大原社会問題研究所評議員及び幹事，学

習院大学理事，ノートルダム女子大学顧問，桜美林大学理事，大阪府教育委員会委員といった経歴に目を向けることができる。

さらに，倉敷中央病院理事長，大阪の石井記念愛染園理事長，宮崎県児湯郡茶臼原の石井記念友愛社会長という医療･福祉の面でも，また，高梁川流域連盟の設立，倉敷商工会議所会頭，史跡自然公園吉備路顕彰保存会会長，岡山県産業教育振興会会長という環境･地域の面でも働いていたことがわかる。

⑶ 労働科学研究所関連

2019年６月末現在，労働科学研究所のホームページには次のような「維持会」の説明が掲載されている。「当研究所の会員組織『維持会』は，当研究所の設立目的と事業に理解をもち協力・支援する企業・団体と個人から構成され，1951（昭和26）年に発足しました。現在，約400の企業，団体，個人が会員です。鉄鋼，化学，電気機器，建設，電力・ガス，自動車･輸送機器製造業などを中心に，金属，運輸，銀行，行政，労働組合，業界団体，法曹，大学研究者など多くの分野の会員によって支えられています」。

労働科学研究所は，倉敷の倉敷紡績工場内に誕生して以降，孫三郎の個人経営という形で維持されていた時期もあったが，その後，孫三郎の手を離れて東京，川崎へと移転し，現在は，大原孫三郎・總一郎父子とも縁の深い桜美林大学新宿キャンパス内で活動を続けている[4]。

そうではあっても，總一郎と労働科学研究所の関係は続いていたと考える。大原家にある大原總一郎資料の中の「大原家継承事業（財）労働科学研究所関係」資料には，労働科学研究所のメンバーからの書簡やイベント（たとえば桐原博士喜寿記念など）についての連絡などが見受けられ，労働科学研究所の「維持会拡大計画」や「維持会報告」という文字も散見される。また，財団の理事などの役員には，木川田一隆，湯浅佑一，岩佐凱実，石川六郎，大槻文平，桜田武など，總一郎と接点があり，親しかったとも表現できそうな財界人たちの名前が見受けられる。總一郎夫妻が理事長を務めた石井記念愛染園の「石井十次の会」というサポーター制度も，同じような財界人たちが名前を連ねていたのだが，1951年に整えられた労働科学研究所の維持会というシステムづくりには，總一郎が大きく関与していたのではないか，と考えてもよいのではないだろうか。

大原總一郎の特徴

共存共栄を目指して「片足に下駄，片足に靴をはいて歩こうとし」続け，「わしの目には十年先が見える。十年たったら世人にわしがやったことがわかる」といった孫三郎の姿勢と，總一郎の姿勢は重なるものである。時代性によって表面にあらわれたものだけを見ていると全く違うようにもみえるが，拙著でも何度かふれたように，両者には共通の核が存在していた[5]。では，戦後復興期から1960年代半ばにかけてすでに，共生や持続可能性，何のための経済か，ということについて皆で考えよう，と訴えかけていた大原總一郎のその点の特徴について，次に見てみることにする。（つづく）

注

1) 生田頼孝「倉敷の大原家（上）」『立命館文学』644号），「倉敷の大原家（下）「倉敷の大原家――戦前の労農階級と『市民社会』からの考察（下）」『立命館文学』647号.

2) 大原孫三郎の福祉実践などについての詳細は，拙著『福祉実践にかけた先駆者たち――留岡幸助と大原孫三郎』藤原書店，2003年ほかを参照。。

3)「収斂」という表現は，大原家と縁続きで，大原總一郎･謙一郎両氏と近しかった故原道彦氏（財団法人大原美術館の元副館長・評議員）によるものである。

4) ちなみに，桜美林学園の創設者，清水安三は，孫三郎が「ドル箱になってくれた」という表現も用いているが，孫三郎の支援によって夫人同伴で２年間，米国のOberlin大学で学んでいる。

5) 拙著『戦後復興と大原總一郎』参照。

タイトル写真：『大原總一郎随想全集』第４巻（福武書店，1981年）より

高橋誠，大学生の職業興味に関する研究――職業活動と職業群に対する興味．労働科学 1999；75（5）：181-192（文献番号：990011）

ホランドによる６つの職業興味領域

椎名 和仁

前回は，細田らが書いた「問題解決教育における状況的認知論の検討――学習者の状況と教授者の役割について」を紹介した。この論文では，学習者の自律性を促すものとして「スキャフォールディング（足場づくり）」の重要性に触れた。これは職場の課題を解決する上で熟練技術者や他部門の人などとのコミュニケーションが大切であり，その足場として研修の「場」を提供し，そこから自ら問題状況に気づき，その解法を主体的に見出し，学習していくことで実践的な施策に移すことできるという考えであった。さらに，筆者は，レヴィン（Lewin,K.）が唱えたグループ・ダイナミックスに触れ，小集団で問題点を話し合い，その施策を自分たちで意思決定することで良好な結果が得られた事例を紹介した。

今回は，大学生の職業興味と職業を選択する時の判断基準を調査した論文を紹介したい。

・高橋誠：大学生の職業興味に関する研究――職業活動と職業群に対する興味．労働科学 1999；75（5）：181-192.

この論文を紹介する前に，現在，職業レディネス・テスト[a)]や職業興味検査（VPI）[b)]で使われているホランド（Holland，J.L.）[c)]の六角形モデルに触れてみたい。ホランドによるとわれわれの職業興味は，①現実的（Realistic），②研究的（Investigative），③芸術的（Artistic），④社会的（Social），⑤企業的（Enterprising），⑥慣習的（Conventional），の６領域[1)]（表１参照）に分類され，人間のパーソナリティ（性格）と環境の特徴との相互作用により，個人の行動が決定されるという。これをRIASEC構造と呼び，この６つの興味領域が六角形モデルを形成される

表１　職業興味の６領域の内容（Holland（1985，1997）より作成）

興味領域	内容
①現実的（R：realistic）	物，道具，機械や動物等を対象とした明確で，秩序的かつ組織的な操作を伴う活動を好む
②研究的（I：investigative）	物理的，生物的，文化的現状の理解やコントロールを目的とした，それらの観察，言語的記述，体系的，創造的な研究を伴う活動を好む
③芸術的（A：artistic）	芸術的な形態や作品の創造を目的とした，物，言語，人間性に関する素材の操作を伴う活動を好む
④社会的（S：social）	情報伝達，訓練，教育，治療，啓蒙を目的とした他社との対人接触を伴う活動を好む
⑤企業的（E：enterprising）	組織目標の達成や経済的利益を目的とした他社との交渉を伴う活動を好む
⑥慣習的（C：conventional）	組織や経済目標の達成を目的としたデータの具体的，秩序的，体系的操作を伴う活動を好む

出典：労働政策研究報告書　No.146（2012，p.64）

しいな かずひと
博士（知識科学）
住友電設株式会社 情報通信システム事業部
主な論文：
・「工学系大学生の安全意識調査と今後の取り組み」（共著）『工学教育』67巻2号，2019年.
・「ヒヤリ・ハットを生かした危険感受性測定シートによる安全教育の効果測定:電気通信工事における安全知識の創造・共有・活用」（単著）『電設技術』64巻2号，2018年.

としている。

さらに，プレディガー（Prediger, D.L.）[d] は，六角形モデルには４つのワーク・タスクがあると考えた[2]。それらを「もの（機械，道具，修理など）」対「ひと（援助，指導，伝えるなど）」，「データ（事実，記録，数字など）」対「アイデア（創作，発見，解釈など）」の２次元で六角形構造が解釈できるとし，職業選択の判断基準があると考えている．例えば，「もの」に関する職業は，大工，農業従事者，技術者などがあり，「ひと」に関する職業は，先生，販売員，看護師などが挙げられる。「データ」に関する職業は，購買担当者，会計士，税理士や航空管制官などがあり，「アイデア」に関する職業は，科学者，音楽家などが挙げられる。

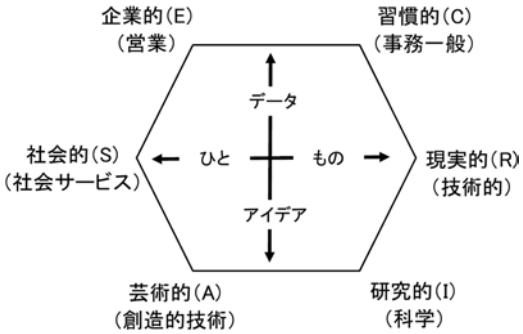


図１　ホランドとプレディガーによるRIASECの六角形モデル
（Prediger（1993）をもとに作成）
出典：藤澤（2018，p.23）

本調査では，学生が興味を持つ職業の活動対象としては，米国で開発されたPAQ[e] やOAI[f] を参考にし，人間，物・機械，動植物・自然，情報の４つに分類している。職業の活動内容は，交渉・折衝する，世話・援助する，教える・指導する，管理する，操作・運転する，作る，組立・製造する，売る，調査・研究する，考える，計画・企画する，書く，処理する，といった内容から30項目の質問を作成している。次に職業群の関心度については，労働省編一般職業適性検査[g] で用いられている職業と解説を参考に職業に対する50項目の質問を作成した。回答用紙は，将来の仕事としての関心度を「非常に関心がある」を４から「全く関心のない」１とした４件法で尋ね，アンケート調査後に回答用紙の集計数値で因子分析を行った[h]。その結果，職業活動については８因子，職業群には10因子が抽出され，それぞれにラベルづけを行っている（表２参照）。

まず学生の属性を性別と理系，文系に分類して職業活動を比較すると，文系の男性群・女性

表２　因子分析によって抽出された因子

職業活動特性			職業群		
因子	活動内容	質問項目	因子	仕事内容	質問項目
精神的活動	研究，計画，企画等の活動	6	製造・建設	製造・加工・組立・監視などの仕事	10
物・機械	機械操作や運転する活動	5	農林漁業	動植物・漁業や自然に関わる仕事	8
身体的活動	体を使って活動できる活動	4	医療・福祉	医療・福祉（介護）に関わる仕事	5
情報	デスクワークが中心な活動	4	事務	事務に関わる仕事	4
人間―不特定	人を相手に交渉したり，折衝したりする活動	5	芸術	装飾やデザインなど芸術的な色彩を持った仕事	5
人間―特定	人を世話したり，援助したりする活動	3	運輸・通信	運輸・通信（保安）などの仕事	4
専門的	資格を有する仕事や著述・編集等の活動	2	専門的・技術的	研究，財務，法律などの専門知識を要する仕事	5
芸術的	芸術的センス（俳優など）必要とされる活動	1	販売・サービス	販売・サービスに関わる仕事	3
合計		30	労務	警備や清掃作業等に関わる仕事	4
			教育	学校教育（教習）に関わる仕事	2
			合計		50

出典：本論文の表１と表２を参考に筆者が加筆

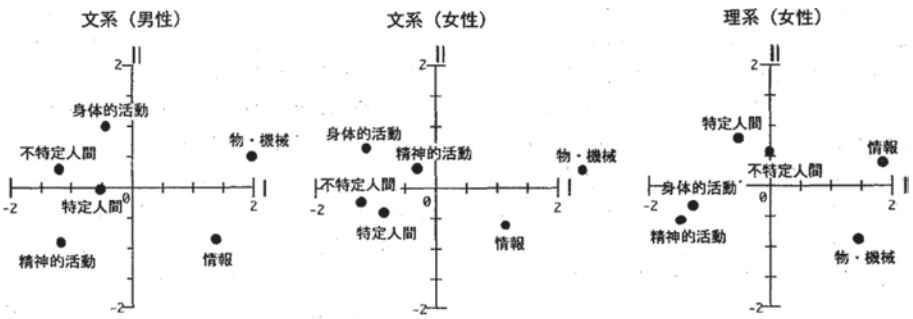


図２　職業活動特性６因子の多次元尺度による分析結果

群に共通していたのは，人間対象活動に対する興味が高く，特に不特定の人間対象活動への興味が高い傾向にあった。一方，物・機械対象への興味は文系・理系ともに男性群が高いが，文系の女性群は最も低い傾向にあった。

次に大学生が高く興味を示した職業活動特性６因子を「もの」対「ひと」，「データ」対「アイデア」の次元を確認した。すると女性群は文系と理系共に物・機械対象と人間対象（特定の人間，不特定の人間）が，精神的活動と情報的活動がほぼ２次元空間上で対角現象に位置し，２つは直交しておらずプレディガーの考える４つのワーク・タスクと一致していた。しかし，文系の男性群は必ずしもワーク・タスクと一致はしておらず，学生の職業興味には国によって違いがあると考えられている（図２参照）。

さらに，ホランドの６領域に対応する因子を確認すると，現実的は「製造・建設」と「農林漁業」，社会的は「福祉・医療」，企業的は「販売・サービス業」，慣習的は「事務」となり，研究的及び芸術的という職業群は確認されず，必ずしも一致しなかった。ホランドとプレディガーによる六角形モデルでは，現実的興味の「製造・建設，農林漁業，労務」は，「物・機械」の「もの」に関する係数が大きく，社会的興味の「医療・福祉，教育」といったものは，「人間―特定」の「ひと」に関する係数が大きかったという結果であった（表３参照）。

これらからホランドとプレディガーの考え方は，われわれが職業選択を判断する上で一つの目安となると考えられよう。

最近では，個人の潜在的な思考特性と行動特

表３　10職業領域の評定値の重回帰分析結果

職業領域因子	重回帰係数(r)	説明率	各職業活動特性の標準値回帰係数								
			物・機械	人間―特定	人間―不特定	情報	(動植物・自然)	精神的活動	身体的活動	専門的	芸術的
F1：製造・建設	0.747	0.558	0.717			0.073		0.054			
F2：農林漁業	0.641	0.411	0.160		0.219		0.634		0.175		
F3：医療・福祉	0.602	0.362		0.537	0.175	0.071	0.222	−0.093			
F4：事務	0.713	0.494	0.103			0.680	−0.074	−0.119		−0.065	
F5：芸術	0.472	0.084	0.117		0.156		0.105	−0.073	0.064		0.410
F6：運輸・通信	0.479	0.230	0.459		0.101				0.140		
F7：専門的・技術的	0.527	0.252		0.077	0.120	0.207	−0.084	0.339			0.163
F8：販売・サービス	0.539	0.291			0.446		−0.071	−0.219	0.079		0.079
F9：労務	0.539	0.291	0.480	0.090		0.110			0.235		
F10：教育	0.535	0.287	0.151	0.540							

性を客観的に分析・把握し，組織内で活用させるさまざまな診断プログラムが開発されている。企業によっては，このような診断結果を参考に組織が求めるパフォーマンスと比較して，業務とのミスマッチを防ぐ試みが行われている。これらの診断プログラムの基本的な仕組みには，ホランドとプレディガーによるRIASECの六角形モデルが適用されていると思われる。

注

a) 仕事に対する興味・関心や自信から，自分のパーソナリティを理解するためのアセスメント・ツール（心理検査）である。
出所：http://www.koyoerc.or.jp/school/assessment_tool/213.html（2019年５月６日アクセス）

b) 160の具体的な職業に対する興味･関心の有無を回答することにより，６種の職業興味領域に対する個人の興味･関心の強さを測定する。
出所：https://www.chibatc.co.jp/cgi/web/index.cgi?c=catalogue-zoom&pk=181（2019年５月６日アクセス）

c) 米国の心理学者

d) 米国の心理学者

e) PAQ（Position Analysis Questionnaire）構造的職務分析ツールであり，調査票は187 項目の職務要素と，７項目の補償項目の計194 項目からなっている。
出所：http://chl.hrsys.net/chl/info/doc/JIL_rep_No151.pdf（2019年５月６日アクセス）

f) OAI（Occupational Analysis Inventory）は，職業上の教育やガイダンスに，より適切に使用できることを目的として作成された質問紙であり，617の仕事の要素に関して問われるものである。出所：http://chl.hrsys.net/chl/info/doc/JIL_rep_No151.pdf（2019年５月６日アクセス）

g) 現在は厚生労働省編一般職業適性検査となっている。

h) 本調査は関西圏と関東圏の公立・私立の４年制大学及び短期大学の学生952名を対象とした。主として一般教養科目として心理学を履修した１～４年生であり，学部は水産学部，外国学部，経済学部，農学部，水産学部，福祉学部，理系及び文系の学生であった。データの信頼性の検討から，922名分のデータを分析対象とした。なお，調1998年11月～12月の期間で調査を実施し，回答所要時間は約40分以内であった。

参考文献

1) 労働政策研究・研修機構編　労働政策研究報告書2012：No.146.
Holland, J. L. Making vocational choices： A theory of vocational personalities and work environments, 2rd ed. Englewood Cliffs, NJ：Prentice-HALL. 1985.
（ホランド, J. L. 著. 渡辺三枝子ほか共訳. 職業選択の理論. 雇用問題研究会, 2013）
Holland, J. L. Making vocational choices: Atheory of vocational personalities and work environments. 3rd ed. Odessa, FL： Psychological AssessmentResources. 1997.

2) Prediger, D.J. Swaney, k. Maua, W.C. Extending Holland's hexagon: procedures, counselling applications, and research. Journal of Counselling & Development 1993；71：422-428.
藤澤宏幸. 理学療法士養成校教員として学生のキャリア形成にいかに関わるか　理学療法の歩み 2018；29（1）：21-26.

凡夫の安全衛生記

32

「あるべき姿を確認する」職場安全衛生管理評価制度

福成 雄三

筆者が勤務した会社の各事業所では，さまざまな形で職場の安全衛生管理や活動の状況を確認する制度（職場安全衛生管理評価制度）が取り入れられてきた。B事業所での取り組みを中心に筆者が知る範囲で導入の経緯などを紹介したい。多少の記憶違いはあるかもしれない。

安全衛生優秀職場制度

B事業所は規模が大きく，多数の職場（ライン組織）から成り立っていた。現業系の室・工場だけでも30を超えており，それぞれの組織に社員100名から500名と，多くの協力会社従業員が業務に従事していた。事業場全体の安全衛生管理は安全衛生部門がリードするとしても日常の管理は各ライン組織が担うことになる。このような体制で遺漏のない安全衛生管理を進めるために，1984年に安全衛生優秀職場制度が作られて運用が始まった。

管理項目別に決められた取り組み内容を審査基準に照らして優秀職場としての認定適否を判定する制度になる。作業長（交代勤務職場では交代番の職長単位の４班を取りまとめる監督者，概ね20～30名の部下がいる）単位で取り組みが行われ，認定審査が行われた。審査項目は，法定の管理や職場活動に関して計200項目近く設定され，審査基準＝実施すべき事項は，冊子（『手引き』）としてまとめられて各職場に配布された。内容を周知させるための研修も行われた。B事業所の職場に出向いたときに，表紙がぼろぼろになるまで読み込まれた『手引き』を見たことを覚えている。審査は職場を所管する室長・工場長による内部審査に始まり，部長審査，事業所安全衛生部門審査，総括安全衛生管理者審査と多段階で行われた。合格すると事業所安全衛生会議で作業長が事業所長から認定証（盾）を受け取ることになる。

協力会社を対象とした認定制度も安全衛生協力会が中心になって整備された。協力会社の安全衛生担当者も審査員となって他社事業所審査に加わるという制度で，現在も形を変えながら継続しているようだ。同じ協力会のメンバーとはいえ，他社の審査をするという取り組み方は異例だった。協力会社が協力会を中心に協力し合うという形が定着していくことになる。

心血を注いで作り上げる

安全衛生優秀職場制度は，とても精緻な制度だった。設備保全部門から安全衛生部門に異動したTK氏が中心になって作ったと聞いている。保全業務は，一定の時間に決められた多様な補修業務を非常に多くの従業員を統率して実施する必要がある。補修対象ごとに業務の分担，進捗管理（個々の補修作業の準備から完了確認まで）などについて綿密な計画を立てて関係者に周知させて，安全に確実に実施する。筆者がB事業所の安全衛生部門の責任者になったときに，TK氏と一緒に仕事をしたことがあるが，まじめな性格で，緻密な仕事ぶりが印象に残っている。設備保全部門で培った綿密な仕事の進め方も安全衛生優秀職場制度に反映されたのだと思う。制度を作り上げるのに「心血を注ぐ」といった様子だったとも聞いている。大規模事業所で作業長単位の職場毎に審査認定するという，

ふくなり ゆうぞう
公益財団法人大原記念労働科学研究所 特別研究員（アドバイザリーボード）
日本人間工学会認定人間工学専門家，労働安全コンサルタント（化学），労働衛生コンサルタント（工学）

ある意味で壮大な（長期的な展望を持った）取り組みだった。安全衛生部門のスタッフは，職場の取り組みに対して手厚いサポートを行い，「あるべき姿」を共に目指していた。

実行計画という考え方

B事業所では1982年から「実行計画に基づく職場安全衛生活動」が推進されていた。この取り組みが，安全衛生優秀職場制度推進のベースになった。実施すべき事項について細かく分担と実施スケジュールを決めて計画的に取り組み，消し込みを行いながら確実に実施していく。このような取り組み方は，安全衛生管理の分野では先進的なものだったと思う。職場の従業員全員が関わることで，従業員の安全衛生意識を高めるだけでなく，計画的な業務遂行を通して人材育成にも結びついたと思う。

進化していく

事業場内の全職場の安全衛生優秀職場認定が終わり，さらに一段上の状態を目指す取り組みが行われた。1991年には，審査項目を追加・修正した上，行動面の評価も追加され，審査項目は555項目に及んだ。取り組む内容を解説した手引書は，A３両面で厚さ２cm位あったと記憶している。総合安全衛生優秀職場制度と名づけられた。このような取り組みを通して，B事業所の安全水準は向上し，業界の中でも注目されるようになっていった。

A事業所の安全衛生部門の責任者だったTO氏がB事業所の取り組みを詳細に調査し，A事業所として，目標レベルへの到達度に応じた段階的な認定をする制度を作り上げた。その後も，見直しが積み重ねられ，今日もA事業所の安全衛生管理の基盤施策として続いていると聞いている。社内他事業所でも，B事業所の取り組みを参考にして，それぞれの事業場に合った制度が導入されていった。

見直しを重ねて

1994年には，審査認定された状態をライン組織自身で確認して維持向上させるという安全衛生優秀職場向上制度という制度に変更された。さらに，筆者が安全衛生部門の責任者だった1997年には基本安全衛生管理向上制度と名づけて，管理項目を60項目ほどに集約した。必要な事項を網羅した上，衛生（健康）管理の取り組みも主要な項目として織り込んだ。各部長と室長・工場長が所管する職場の実施状況に責任を負う制度とした。一定の高い安全衛生水準に至っている一方，生産体制の効率化が進められる中で，従来制度の継続は関係者の負荷も大きく，必ずしも安全衛生水準を高めることに結びつかないと考えてのことだった。「ゆるい」制度にしてしまったかもしれない。

「手引き」も再整備し，毎年改訂して遺漏のない管理ができるようにした。併せて，事業所の安全衛生関係規程（基準）を体系的に整備して（100近くはあった）示し，制度を支えた。この制度の要にいたのは，転出したTK氏の思いを引き継いだ中堅スタッフのHY氏だった。

基本安全衛生管理向上制度は，B事業所の安全衛生管理の基盤として機能していった。ただし，職場の主体性を尊重する取り組み方は，理想的な面もあるが，職場間のバラツキが大きくならざるを得ない面もあった。

B事業所は，基本安全衛生管理向上制度をベースに，2003年に中災防のJISHA方式OSHMS認定を全国で最初に受けることになった（本誌「凡夫の安全衛生記（22）」で紹介した）。認定を受けるに際し，事業所全体のレベル向上を統一的に図るべく，安全衛生部門として室・工場への指導（監査）機能を強化した。

審査認定制度の是非

筆者の勤務していた会社では，記載のような経過をたどりながら，職場安全衛生管理評価制度を作り上げ，OSHMSへと発展させてきた。

規模の大きな事業場の安全衛生管理にとってこのような制度は有用だと思う一方，審査認定で安全衛生確保に必要なすべてのことが適切に実施できることにならないだろう。従業員の行動を評価対象にすることにも限界がある。また，制度を絶対的なものと考えると，形骸化を生むことにつながることがあり注意したい。OSHMSとして見直しを重ねながら，その中でハード面の対策を推進したり，時宜に適った教育や活動などを実施したりすることも欠かせない。

産業保健の仕事に携わって 13

エピソード (2)

熊谷 信二

PCBの許容濃度

現在，私は日本産業衛生学会の許容濃度委員会の委員であるが，発端はポリ塩化ビフェニル（PCB）である。2004年に蛍光灯器具からコンデンサーを分離する作業をしていた労働者から相談があり，血中PCB濃度を測定したところ，10日間従事しただけなのに，ポリ塩化ビフェニル濃度が一般人の100倍になっていたことは紹介した（第６回参照）。この事例を契機に，PCBの許容濃度について考察したところ，当時の許容濃度0.1mg/m^{3}では，健康影響が発生する可能性が考えられた。

同時期に，日本環境安全事業株式会社（国が100％出資，現・中間貯蔵環境安全事業株式会社）がPCBを無害化処理する工場を北九州市に建設して操業を始めた（写真１）。私は2005年からこの処理工場に関する作業安全衛生部会の委員

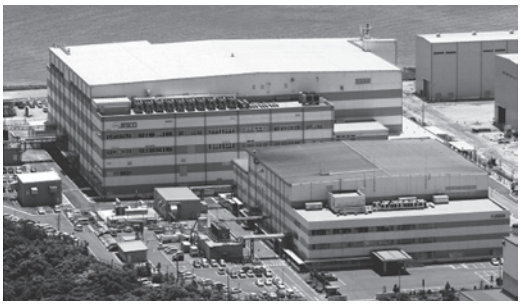


写真１　北九州市にあるPCB処理工場
（中間貯蔵・環境安全事業株式会社ホームページより）

になった。国の方針では処理工場を全国５ヵ所に建設して，2016年までに全てのPCBの処理を終了することになっていた（処理の遅れのため，現在も続いている）。1972年以来，PCBを使用した製品の製造は中止されていたので，労働者のPCB曝露はなくなっていたが，この時から新たなPCB曝露が始まる可能性があった。上記のように，私は当時の許容濃度は高すぎると考えていたので，同年６月に許容濃度委員会に見直しが必要であるという趣旨の要望を文書で提出した。その後，委員会で検討していただいた結果，私に提案理由書案をつくるようにとの指示がきた。

このような基準値の提案理由書の作成経験はなかったが，こうなったらつくるしかない。文献を読み直したり，新たに収集したりして，11月に出来上がった。許容濃度を１/10の0.01mg/m^{3}とするという提案である。12月に臨時起案委員という立場で委員会に出席して説

くまがい しんじ
1953年愛媛県生まれ．1971年京都大学工学部入学，1975年卒業．1977年京都大学大学院工学研究科修士課程修了．同年社団法人関西労働衛生技術センター，1985年大阪府立公衆衛生研究所，2010年産業医科大学，2018年３月定年退職．
博士（工学）
主な著書：
・『統計学の基礎から学ぶ作業環境評価・個人曝露評価』労働科学研究所，2013年．
・『産業安全保健ハンドブック』（共著）労働科学研究所，2013年．

明した。そして2006年５月の許容濃度委員会で最終確認され，日本産業衛生学会の総会で承認された。本当にほっとした。この時には「臨時」が取れて起案委員になっており，2008年からは委員になった。

許容濃度の改訂を受けて，国が定める管理濃度も2009年に0.01mg/m^{3}に変更された。私は2018年３月まで，PCB処理工場の作業安全衛生部会の委員として，PCB処理労働者の曝露を見守ったが，作業環境濃度が0.01mg/m^3（改訂された管理濃度）よりも高い職場では，血中濃度が基準（25mg/L）を超えるケースがあり，許容濃度を下げておいて良かったなと実感した次第である。

自治体行政とマスコミ報道

大阪府立公衆衛生研究所は大阪府の研究所なので，当然，大阪府行政の意向が反映される。私は労働衛生部（後に生活衛生課）に所属していたが，大阪府庁内に担当課がなかったため，行政の縛りは比較的弱かった。しかし時々お叱りを受けることがあった。

2005年６月にクボタショックが起こり，奈良県立医科大学の車谷典男氏と一緒に疫学調査を実施した時のことである（第７回参照）。８月に車谷氏が中間発表を行い，マスコミ報道された。この時は，私の意向で，私の名前は出さなかった。大阪府庁の逆鱗に触れるといけないとの判断からである。

翌2006年４月に，クボタの旧石綿管工場周辺の石綿相対濃度と中皮腫死亡リスクの関係を私が発表し，マスコミ報道された（図１）。この時は事前に研究所の所長の了解を得て，本庁サイドにもメールを送っておいたが，何も言ってこなかった。報道後，環境省から本庁に，事前の連絡がなかったという抗議の電話があったらしく，そのことで本庁から問い合わせがあった。

私は本庁に出向いて，本庁への連絡がうまく伝わっていなかったことを謝罪するとともに，調査結果の説明を行った。このような時に重要なことは，その後も萎縮しないことである。社会問題が起こると，行政の方は非常に忙しくなり大変なのは，私も理解しているが，やはり自

図１　石綿飛散を伝える新聞
（『毎日新聞』2006年４月12日朝刊）

分は自分でやるべきことをするしかないのである。私はそれ以降も調査を続行するとともに，他の地域の疫学調査も進めていった。マスコミ報道の可能性がある場合は，事前に本庁の了解を取った。このような場合，行政サイドは「止めろ」とは言わなかった。本音はわからないが，健康問題である限りは，ストップをかけることがためらわれるのだと思う。

非政府組織（NGO）・非営利団体（NPO）

第７回の「クボタショック」で紹介したが，中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会のようなNGOやNPOの人たちの使命感と行動力には目を見張るものがある。

中皮腫・じん肺・アスベストセンターも

NPOの一つであり，所長の名取雄司氏には，1995年に横須賀米軍基地の船舶修理労働者の疫学調査に参加した時に出会った。同センターは，中皮腫患者などからの個別相談に応じてさまざまな調査を行い，労災や裁判の意見書を作成したりするとともに，国の石綿政策を変更させるための資料づくりや提言も行っている。例えば，建築物に石綿が使用されているかを的確にチェックできる人材を育成するために，欧州各国の制度を調べるとともに，国土交通省に働きかけて，建築物石綿含有建材調査者制度をつくらせた。

図2　アスベスト禍はなぜ広がったのか（日本評論社 2009年）

図3　関西労働者安全センターの機関紙

また，日本の石綿産業の歴史と国の関与を明らかにするために，多くの文献や資料を収集して本をつくる（図2）。1991年まで製造されていたニチアスの煙突材に石綿が使用されていたことを知ると，煙突からの飛散状況を調査したり，この事実を広く知らせるために本をつくったりする（『建物の煙突用石綿断熱材 ――劣化・飛散の実態と今後の管理について』アットワークス，2013年）。これらは一例であり，その他にもさまざまな活動を行っている。彼らは石綿問題の全体像と細部の両方を把握しており，かつその解決の道筋を真剣に考えている。数年で異動する国の石綿政策の担当者ではとうてい及ばないと思う。もちろん私も遠く及ばない。

ところで，私は1973年に関西労働者安全センターの結成集会に参加したことから，産業保健に関わることになったが（第1回参照），同センターはNGOである（図3）。それ以来，関西労働者安全センターとはときどき一緒に仕事をしてきた。2005年のクボタショックの時も，2012年の胆管がん事件の時も，私が関わることになったのは，同センターからの相談であった。同センターには4人の専従事務局員がおり，労災被害者の支援や労働現場の安全衛生向上のために活動している。彼らは労災職業病全般をよく理解しており，被害者の声を丁寧に聞いて，行政や企業との交渉などを適確に行うので，一緒に仕事をするととても勉強になる。化学物質，騒音・振動，人間工学，メンタルヘルス，過重労働など，基本的には何にでも対応できる。また事務局員には，スペイン語，インドネシア語，英語，韓国語に堪能な人材がおり，外国人労働者の労災問題などにも取り組んでいる。

このようなNPOやNGOが産業保健の分野で果たす役割は今後ますます重要になっていくと考えられる。したがって，大学の研究者など，産業保健の専門家は彼らと協働して課題に取り組んでいくことも必要であろう。

バイブル

1979年に労働科学研究所の多田治先生と中明賢二先生（現 麻布大学名誉教授）が共著で『環境有害物の測定と評価』（図4）という本を出された。この本は私のような作業環境測定を行うものにとってはバイブルのような存在であった。法的に測定義務のある化学物質の分析法については，日本作業環境測定協会から『作業環境測定ガイドブック』が出版されていたが，それ以外の化学物質の測定を行う時には，この本を参考にしたものである。このため中明先生の名前は存じ上げていたが，先生が私の名前を認識されたのは，1988年の第61回日本労働衛生工学会（金沢）において，私が個人曝露濃度の評価法について発表した時ではないかと思っている（私の思い込みかもしれないが）。中明先生が質問され，私が回答した。その数年後には個人的にもお話しするようになった。2001年に

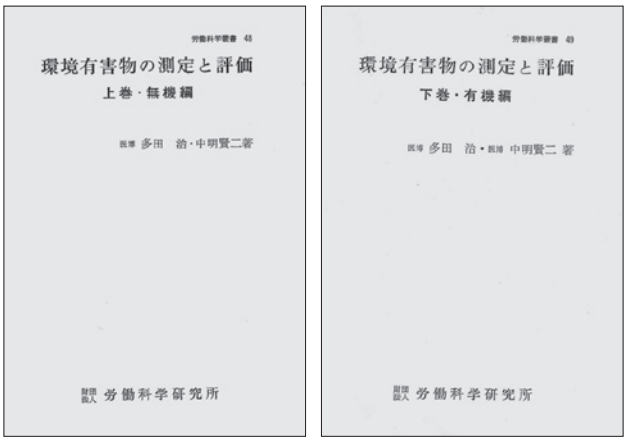


図４　環境有害物の測定と評価（上巻・無機編，下巻・有機編，中表紙）（労働科学研究所 1979年，1980年）

は，中明先生は日本産業衛生学会の産業衛生技術部会の初代の部会長になられた。一緒に研究をさせていただいたことはないが，学会等でお会いすると，いつも励ましの言葉をかけていただいたものである。私は日本産業衛生学会から2002年に奨励賞を，2017年に学会賞をいただいたが，いずれも中明先生が推薦者になってくださった。

大学で働く

2010年から2018年まで北九州市にある産業医科大学に勤務した（写真２）。同大学は，産業医や産業保健スタッフなどを育成するために，労働省（現 厚生労働省）がつくった私立大学である。開学は1978年であり，昨年は40周年であった。私立大学なので，授業料は国公立大学よりも高いが，その差額に相当する修学資金を貸与する制度があり，学生は希望すれば誰でも借りることができる。しかも卒業後，産業保健に関わる職務に一定期間就けば，貸与を受けた全額が返還免除となる。

同大学には医学部と産業保健学部があるが，私は産業保健学部に所属し，環境マネジメント学科の学生教育を担当した。同学科の学生は，卒業すると第二種作業環境測定士と第一種衛生管理者（いずれも国家資格）の資格が取得できるため，作業環境測定機関の作業環境測定士や企業の衛生管理者として活躍している。また労働基準監督官（国家公務員）になる者もいる。

私は学生教育の経験がなかったので，最初の授業は緊張した。それでも私の関西弁が比較的好評だったようで，和やかな雰囲気で授業ができた。その後も福岡県の方と話していると，「関西の方ですか」とよく言われた。私自身は標準語を話しているつもりなのであるが，関西弁のアクセントがあるらしい。

ところで，実際に授業を担当して痛感したことは，統計学の基礎から始めて作業環境評価に至る過程を系統的に記述した書物がないことである。そこで，高校で学んだ数学のレベルから始めても，順を追って進めば，作業環境評価の理論が十分理解できるような教科書が必要だと思うようになった。また，せっかくつくるのであれば，私が大学卒業後，長年にわたり学んできたことや，産業現場における調査で得られた知見も入れたいと考えた。それを実現したのが，2013年に労働科学研究所から出版された『統

写真２　産業医科大学

図５　教科書『統計学の基礎から学ぶ作業環境評価・個人曝露評価』

計学の基礎から学ぶ作業環境評価・個人曝露評価』（A４判，254頁）」である（図５）。出版に当たっては，労働科学研究所の原知之氏に大変お世話になった。

教員生活

私自身が学生の時は，大学の先生方は学生の反応などは気に留めずに授業を淡々と行い，分かりやすく話そうと心を砕いているようには見えなかった（授業にあまり出席しなかった私が言うのも何だが）。授業では出席を取らないので，全く出席しなくても，試験が60点以上であれば単位を取得できた。また学生が単位を落としても，教員はまったく気にしないし，教員の評価にも影響しなかった（学生だった私にはそのように見えていた）。

しかし今は大学の状況も相当変わってきている。授業では出席を取るし，欠席が１/３を超えると，学生は試験を受けることができない。単位を落とす学生が出ると，その後どのようにフォローするかを教員で相談するし，あまりにも成績が悪いと，保護者との面談も行う。学生による授業評価もあり，その結果も公表される。また，教授になると，各種委員会もやたらと多く，その責任者ともなると負担も相当重い。このような委員会の仕事と授業にかなりの時間を費やすので，研究時間の確保が難しい。結局，学生の長期休暇期間（夏休み，春休み）に研究をすることになる。時代とともに変わるのは当然のことだが，昔の先生方が羨ましくなった（「昔は昔で大変だったのだ」との反論があるだろうけれど）。

このように大変だった面もあるが，良い点もあった。私は一戸建ての教員住宅に住んでいたが，大学の自分の部屋までは歩いて10分程だった。大阪府時代は満員電車を乗り継いで１時間以上かかっていたので，随分楽になった。また，大阪府と違い，行政部門に気を使う必要がなくなった。社会問題に取り組んでも，全て自分が責任を負えば，基本的には誰も文句は言わない。その意味でストレスがかなり減少した。お陰で体重が57キロから65キロになり，松山に帰省した時には，父から「元気そうになった」と喜ばれた。

倫理委員会

ある会社の労働組合と共同で疫学調査を実施しようとした時に，大学の倫理委員会で「労使双方の社会的合意が承認の条件」と言われたことがある。確かに，労使の合意があれば，調査はスムーズに進むであろう。したがって労使の合意を得ることができるのであれば，そうするのがよいと思う。しかし使用者側の同意は不可欠ではないはずである。労働組合が自分たちの健康状態を明らかにするために，研究者と一緒に疫学調査をする場合でも，使用者側の同意がなければ実施してはいけないのであろうか。そんなことはないはずである。労働者には自分たちの健康状態を知る権利があるのだから。そしてその権利を行使するに当たって，使用者側の同意を得る必要はないのである。

実際，わが国には，労働組合と研究者が協力して疫学調査を行い，健康障害の実態を明らかにしてきた先人たちの歴史がある。例えば，じん肺，石綿関連疾患，腰痛，頸肩腕障害，指曲がり症，振動病，過労死などの調査であり，それらがその後の産業保健の発展に大きな役割を果たしてきた。したがって労働組合と研究者が協力して疫学調査を行う場合，倫理委員会は，使用者側の合意を得ることを承認の条件とする

べきではない。

北九州市での生活

写真３　響灘（波津海岸）

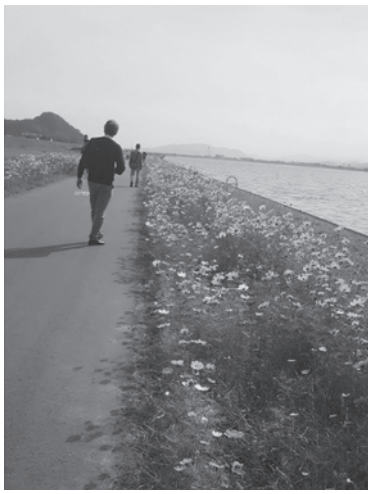


写真４　遠賀川（河川敷）

現役時代の最後の８年間を北九州市で過ごしたが，風の強さに驚いた。それまでは愛媛県，京都府，大阪府で生活してきたが，太平洋にも日本海にも面していない地域なので，海洋からの風が山で遮られて，強風はめったになかったが，日本海に面した北九州市では強風はしょっちゅうであった。風が吹くと，家がビュービュー鳴るので，倒壊するのではないかとヒヤヒヤした。また，家が古いためか隙間が多く，冬は本当に寒かった。風呂に入っていると，窓を閉めていても冷たい外気がすうっと入ってきた。夜は布団に湯たんぽを入れないと寒くて寝付けなかった。年間を通じて気温が０℃以下になることはあまりなかったが，2016年の１月下旬に日中でも０℃以下の日があった。その時は風呂の蛇口に氷柱ができた。

一方，北九州市で生活して感激したこともある。魚がおいしいことである。それもスーパーで普通に売られているものが本当にうまいのである。サバの刺身は初めて食べた。寄生虫のアニサキスのことが少しは気になったが，退職するまでずっと食べていた。

大阪府時代は自家用車を持っていなかったが，特に苦にならなかった。しかし北九州市では車がないととても不便であった。例えば，自宅から最寄りの鉄道の駅まで２km余りあったが，バスは30分から１時間に１本程度しかなかった。そのため，中古の軽自動車を購入した。私は自動車の免許を持っていないので（自動二輪の免許は持っている），妻が運転してくれた。休日はいろんなところを回った。特に海岸に出て響灘を眺めるのが好きだった（写真３）。また，筑豊地方（飯塚市・直方市・田川市など）に行って，帰りに遠賀川の堤防沿いの道を下るのが気持ち良かった（写真４）。２人とも臆病なので，高速道路はまだ走ったことがない。

大学の周りには喫茶店が少なかった（福岡県35店/10万人，大阪府106店/10万人）。それで休日は喫茶店を探して回ったが，「珈琲館」というチェーン店のモーニングサービスの虜になってしまった。毎週土日は，用事がない限りモーニングサービスである。私はコーヒーにスティックシュガー２つを入れるが，店員がそれを覚えてくれて，何も言わないでも２つ付くようになった。何だかVIP（Very Important Person）になった気分である。大学退職後，大阪に戻る前に珈琲館に行った時は，店員総出で見送りをしてくれた。その上，土産物までくださった。いい思い出である。大阪に戻ってきても，週に１回は近くの珈琲館でモーニングサービスを食べている。年金生活者としてはささやかな贅沢である。

参加型改善の国際研修“日韓PAOT”で学んだこと

坪沼 将太郎，杉浦 豪

はじめに

2019年２月15日～16日に日韓参加型安全衛生改善活動トレーニング（PAOT）が韓国大邱の大邱勤労者健康センターで開催された。参加者は私たちを含む大学生，研究者，医療従事者など幅広く，参加者の世代もさまざまであった。今回の日韓PAOTは，訪問先の事業場のために新たなトレーニングキットを開発することを目的としたプログラムであった。グループワークやプレゼンテーションを通して，両国の参加者の交流は深まっていった。

良好事例の発見

本研修は学生食堂の事業場訪問からスタートした。最初に４グループに分かれた私たちは，互いに自己紹介をして，大学の学生食堂にバスで移動した。４グループは調理中の学食厨房を見学し，アクションチェックリストの構成に従って「運搬と保管」「作業台と安全設備」「作業場環境」「働きやすいチーム作業」の４側面から良好事例をチェックした。私たちは初参加だったが，わかりやすいチェックリストと周囲のサポートのおかげで，見よう見まねでもプログラムについていくことができた。

当初，良好事例に目を向けることに慣れていない私たちは「どうせ改善するなら悪いところを見つけた方がいいのでは？」と要改善点ばかりに気を取られていた。しかし，ポジティブアプローチを踏襲する参加型改善では，チェックリストは良好事例を発見するために用いるものであり，要改善点を指摘するためのツールではないと教わった。良好事例を発見する楽しさがわかってくると，要改善点を指摘する時間がもったいないと思うようになった。このような心理的変化は非常に新鮮なものであった。

多国籍ミーティングの魅力

事業場訪問を終えた後はグループごとにディスカッションを行った。ディスカッションの目的は，事業場訪問で発見した良好事例や，現場で感じたことをメンバー間で共有し，発表することである。グループごとに通訳がついてはいるものの，９名のうち日本人は３名だけであることから，韓国語で会話が弾む場面が多かった。最初はうまく自分の意見を伝えられない歯がゆさを感じていたが，途中からは拙くてもいいから積極的に英語で話しかけようという気持ちになった。身振り手振り，イラストを駆使し，互いの些細な配慮や気づかいを表現することによって，意思疎通をはかれるようになっていった。日本のメンバーが細かな良好事例に気づき，韓国のメンバーがディスカッションを活気づけるなど，互いの持ち味を発揮し合えるようになったので，課題を終えた時は何倍もの達成感を味わうことができた。

国籍，言語，価値観，環境が異なる人との多国籍ミーティングは，うまくいくことばかりではないと思う。しかし，各自が試行錯誤しながら互いに歩み寄り，思いやり，理解し合おうとする中で，グループの絆が強くなっていくプロ

つぼぬま しょうたろう
すぎうら ごう
順天堂大学スポーツ健康科学部

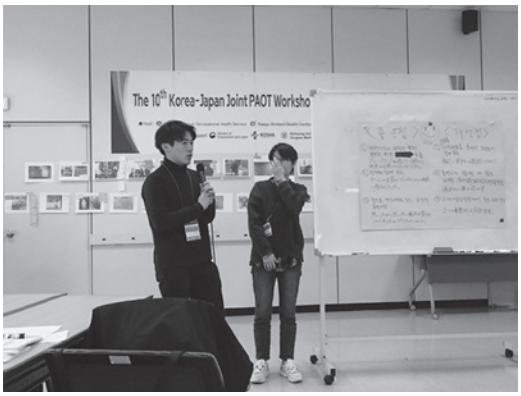


写真１　グループ発表の様子

写真３　ロールプレイの様子

写真２　プレゼンテーションの準備

写真４　グループ発表

セスは，多国籍ミーティングの大いなる魅力だと感じた。

アイデアの創出

最後のプログラムは，事業場の方に提案するトレーニングキットの検討とグループ発表である。そこでの学びは,自分だけで考えるよりも,メンバーの価値観に触れた方が最終的に良いアイデアが生まれるということである。PAOTの経験者や，韓国の参加者の方は，私たちが見落としていたことや，普通は気にとめないような細かな点によく気がついていた。実際に，私たちは作業効率の向上を狙った机の配置や，安全への配慮に関するいくつかのアイデアを提案したが，リスク管理や実現可能性の視点が欠けていることを指摘されることがあった。「言われてみれば確かに……」と思うことが多々あり，自分の短絡的な視点に気づくことができた。それからは，自分ひとりでは気がつかない点があるという前提に立ち，メンバーの意見やアイデアを傾聴し，組み合わせていくというプロセスを繰り返すようにした。これにより，アイデアの質は自然と高まっていった。

ロールプレイの挑戦

グループ発表ではロールプレイに挑戦した。スライド発表に慣れていた私たちにとって，ロールプレイの体験は新鮮だった。確かに，ロールプレイなら言語が異なっていても，伝えたいことを身体で表現することができる。多くのグループは，改善前と改善後の作業場の様子を比較しながら演じることで，自分たちの改善案の有効性を伝えていた。あるグループは，職場の休憩時間が短くてイライラして，他のスタッフの小さなミスに声を荒げている従業員を演じていた。その後に，ゴムチューブのエクササイズ

日韓PAOTのスケジュール

日程	プログラム
2月14日	韓国へ入国
2月15日	オリエンテーション 現場調査：慶明大学の食堂見学 グループワーク：食堂見学の振り返り 基調講演 グループワーク：良好事例の見つけ方 グループワーク：トレーニングキットの作成
2月16日	グループワーク：前日の振り返り グループ発表 グループワーク：発表の振り返り アジア健康労働フォーラム 日韓良好事例写真コンテスト グループワーク：改善研修の振り返り 総評・閉会 小観光（ナイトマーケット）
2月17日	小観光（慶州市） 日本へ帰国

によってクールダウンした様子を演じることで，「適度な休息とエクササイズを取り入れよう」と提案した。言葉を話さないロールプレイに聴衆は当初は困惑した様子だったが，表情や動きから内容が理解できるようになると，歓声や拍手が聞こえるようになった。最終日で疲労が溜まっているにもかかわらず，ユーモアの溢れるロールプレイによって，会場の雰囲気は和み，笑い声に包まれていった。

小観光

プログラム終了後には，小観光も計画されていた。私たちを韓国の参加者の方々が宿泊先付近の屋台街を案内してくれたのだ。特に，シッケと呼ばれる日本の甘酒のようなお酒や，本場韓国のチヂミは絶品であった。初めて韓国を訪れたにもかかわらず，短時間で現地の方のお勧めグルメを堪能し，小観光を楽しむことができるのも日韓PAOTの魅力といえよう。そして，３日間の研修を共にした仲間だからこそ，楽しい交流が生まれるのだと実感した。

写真５　ナイトマーケット

おわりに

初参加の日韓PAOTを終えて改めて感じたことは，参加型改善が果たす社会貢献力の甚大さである。特に，私たちで考えたアイデアを現場に提案した時は，大きな充実感を得たと同時に，心の底から現場が良くなってほしいと願っている自分に気づくことができた。

講師の先生方から多くの知識やコツを学ぶこともできた。講師の小木和孝先生が「スモール・イズ・ビューティフル」と参加型改善のポイントを表現されたのは特に印象に残っている。この言葉は「リスクがあるなら，まずは小さな改善から始めること。それを水平展開していくことが大切であり，評価は後からすればよい」という参加型改善の基本理念が表現されている。この考え方は，どのような活動にも応用できることであり，学生でもその日から実践できる学びだと感じた。

ここまで述べてきたように，日韓PAOTは学生でも参加できる学び多いプログラムである。今後も国内で開催されるPAOTには積極的に参加し，参加型改善の理解を深め，１人でも多くの人に還元していきたいと思う。

Books

古から今に伝わる 日本の文様

藤 依里子 文様図版監修・文
kd factory 文様図版制作

多くの思いの込められた意匠と言葉

岸田 幸弥

本書のタイトル「日本の文様」について，著者は，「紋様」や「模様」ではなく，「文様」としていることについて，「恩師である西陣織りデザイナーの水野恵司氏と著者の考えでは，ひとつ，ひとつの描かれた意匠の中には，ただ美しいだけではなく多くの思いがあり，それが言葉としてではなく描かれているものだと考え文様とさせて頂きました」との注釈が付いている。まさに本書は「日本の文様」について紹介した本である。

本書の構成は，１章・生きるための知恵と願いから生まれた「植物の文様」，２章・猛獣は少なく，身近な生き物達が多い「生き物の文様」，３章・各種の自然信仰と関係するものもある「自然や風景などの文様」，４章・守られたい気持から描かれたとされる「神仏などの文様」，５章・八百万神の国だからこそ生まれた「乗り物，調度品，器物などの道具の文様」，６章・文様の世界観がよくわかる「割付文･役者文･判じ絵（悟り絵）文などの各種の文様」，この他，Column欄には，和の文様の楽しみ方や「和の文様の歴史」などが記載されてあり，文様のバックグラウンドが分かるようになっている。この本は，参考文献や参考サイトが充実しており，文様に興味を持った人がさらに深く内容を知ることができる。

本書は文様の本であるから，文様ごとに，そのカラー写真が掲載されており，カラー写真用の印刷紙が使われているので，きれいな文様が見事に再現されており，その文様を見るだけでも心が豊かになる。筆者の家の門には，南天が植えられており，その謂れが南天文で解決した。「難を転じて福となす」まさに多くの日本人が災難厄除け，無病息災に通じるということで，お正月に飾られるのも頷ける。

梟文は福来郎文と書かれることもある。夜目が利くことから「目利き」，首をグルリと回せることから「首が回る」として商売繁盛，富貴繁栄に通じる。森の賢者と呼ばれることで合格祈願の願いも託されるなど多くの場面に登場する。今なら不苦労，不苦老などの文字に置き換えることで，高齢社会にも歓迎される文様といえよう。

蝙蝠文は「幸守り」，「幸盛り」の当て字を使い幸せを呼ぶとされたとのことだが，尾形光琳が描いた「光琳蝙蝠文」があり，他にも長寿・富貴・康寧・好徳・善終の五福に通じるとされる五羽のコウモリを描いた「五羽蝙蝠文」をみるとデザインとしての文様のすばらしさを感じざるをえない。

竜田川文は代表的な風景文のひとつで，在原業平の「ちはやぶる神代もきかず竜田川からくれなゐに水くくるとは」等の和歌で知られ，この様子を描いた文様が竜田川文と呼ばれている。この文様は技芸上達の願いを託すことができるとされ，多くの場面で採用されている。

藤 依里子 文様図版監修・文
kd factory 文様図版制作
ビジュアルだいわ文庫 大和書房，2019年６月，文庫本256頁，定価800円＋税

神仏などの文様では，中国の古代文様のひとつでもある四神文や鳳凰，霊亀，応龍と共に「四霊」とされる麒麟文は平安を表す鳳凰吉凶を予知する千年以上生きた霊亀，変幻を表す翼を持つ応龍と共に信義を表すとされる麒麟は「四霊」のひとつとされており，日本人の心に深く関わっていることから文様となったようである。

役者文には格子文といわれるものに歌舞伎役者の中村勘三郎の中村格子文や坂東三津五郎縞といわれる縞文がある。町人文化を反映した文様があるのは興味深い。ともかく興味深く楽しくなるのが本書である。一読をお勧めしたい。

きしだ こうや
大原記念労働科学研究所 主管研究員
高崎経済大学 名誉教授

安全・健康・職場環境の課題を
総合的にマネジメント

産業安全保健エキスパート®養成コース

【第16期】受講者募集

産業安全保健エキスパート®とは、産業現場における安全、健康、職場環境に関わる課題を総合的にマネジメントする各職場における中核人材です。養成コースでは、安全・健康・職場環境の課題を三位一体的に捉え、大学院レベルの講義と実践を行います。講師は、産業界、学界より厳選された専門家や産業安全保健エキスパート有資格者が務めます。

開講日

前期▶ 2019年 10月10日（木）・11日（金）・12日（土）
前期▶ 2019年 11月 7日（木）・ 8日（金）・ 9日（土）
前期▶ 2019年 12月12日（木）・13日（金）・14日（土）
後期▶ 2020年 2月20日（木）・21日（金）

科目例

過労死の実態と防止対策／産業事故・転倒事故／産業安全総論／産業機械の災害防止手法／健康経営／企業で安全と取り組む／企業で健康と取り組む／企業で職場環境の改善と取り組む／外国人労働者の安全と健康／女性労働者の安全と健康／高年齢労働者の安全と健康／自動運転と社会受容／健康的で生産性の高い働き方とオフィスづくり／IoTを職場改善に生かす／外資系企業で安全保健と取り組む／海外進出企業の安全保健活動を支援する／アジアで職場環境改善に取り組む／BCPで自然災害に備える／暴力・ハラスメントの組織的対応／これだけは知っておきたい熱中症対策／ワークショップ

申込・詳細

公益財団法人 大原記念労働科学研究所
産業安全保健エキスパート® 養成コース担当事務局
URL http://www.isl.or.jp E-mail expert_unei@isl.or.jp

労働科學のページ

THE JOURNAL OF SCIENCE OF LABOUR

『労働科學』95巻1号掲載論文抄録

製造業男性労働者におけるAUDIT を使用した 有害なアルコール使用リスク評価とメタボリック症候群の関係

彌冨美奈子，原俊哉，杜岳文，堤明純

男性製造業労働者（2978名）に対してAUDITで評価した有害なアルコール使用リスクとメタボリック症候群との関連性について検討した。AUDIT得点により低リスク群（0－7点），中リスク群（8－14点），高リスク群（>15点）に分類し，下位尺度のアルコール消費領域を3群，アルコール依存症状・有害なアルコール使用領域を2群に分けて検討した。低リスク群を基準としたメタボリック症候群の調整後オッズ比は，中リスク群，高リスク群では1.50（1.05−2.92），1.75（1.03−2.18）であった。アルコール消費領域では，中リスク群，高リスク群の調整後オッズ比は1.06（0.73−1.55），1.61（1.10−2.43），アルコール依存症状･アルコール有害使用領域では，高リスク群のオッズ比は1.46（1.05−2.03）であった。（表2）男性労働者においてAUDITとその下位尺度で測定される有害飲酒指標とメタボリック症候群に関連がみられた。（表2）（自抄）

Table 2. Odds ratio (OR) and 95% Confidence intervals (CIs) for metabolic syndrome according to AUDIT score.

表2．AUDITの得点別メタボリック症候群のオッズ比（95%信頼区間）

	Crude OR		Multivariate OR Model I*		Multivariate OR Model II**		Multivariate OR Model III***	
	OR	(95% CI)	OR	(95% CI)	OR	(95% CI)	OR	(95% CI)
AUDIT score								
0-7	1		1		1		1	
8-14	1.41	(1.03-1.93)	1.44	(1.00-2.07)	1.53	(1.06-2.22)	1.50	(1.05-2.92)
>15	1.83	(1.19-2.81)	1.82	(1.10-2.99)	1.82	(1.09-3.04)	1.75	(1.03-2.18)
	Trend p<0.01		Trend p<0.01		Trend p<0.01		Trend p<0.01	
Subgroup of AUDIT								
AUDIT alcohol consumption domain								
0-3	1		1		1		1	
4-6	1.00	(0.73-1.38)	1.06	(0.73-1.54)	1.07	(0.73-1.56)	1.06	(0.73-1.55)
>7	1.54	(1.10-2.16)	1.56	(1.05-2.33)	1.64	(1.09-2.47)	1.61	(1.10-2.43)
	Trend p=0.02		Trend p=0.04		Trend p=0.03		Trend p=0.03	
AUDIT alcohol related problems domain								
0-1	1		1		1		1	
>2	1.31	(0.99-1.73)	1.45	(1.05-2.01)	1.49	(1.07-2.08)	1.46	(1.05-2.03)

* Adjusted for age and BMI.
** Adjusted for age, BMI, smoking, eating habit and exercise.
***Adjusted for age, BMI, smoking, eating habit, exercise, occupations, shift work and overtime work (hours)

参加型職場環境改善の評価指標に関する文献レビュー

湯淺晶子，吉川悦子，吉川徹

参加型職場環境改善の評価における課題と生産性・職場活力向上に資する指標について文献検討した。3つのデータベース（医中誌，PubMed，CHINAL）から1999〜2016年に発表された原著論文のうち，参加型職場環境改善の介入研究において何らかの評価結果が記載されている文献を分析対象とし，コーディングシートに従って文献に記載されている内容を整理した。その結果，32編の論文が抽出された。評価指標は，「身体的な健康アウトカム」「心理社会的な健康アウトカム」「職場風土･職場文化に関する指標」「生産性に関するアウトカム」「労働災害･災害休業･職業性疾患の発生件数」「その他」に分類され，すべての研究が複数の評価指標を設定していた。この中で12編は介入により有意な改善がみられた。参加型職場環境改善に対する評価指標の選択には，改善する動機や目的を主効果として測定しており，それぞれの取り組み背景や主目的により設定する評価指標そのものが異なっていた。有意な改善が見られていない報告もあり，職場環境改善の目的に応じた適切な評価指標の設定と体系的な評価方法を用いることが重要である。（表1）（自抄）

最 新 刊

THE JOURNAL OF SCIENCE OF LABOUR
労 働 科 學

B5判　年6回刊　定価1,500円（本体1,389円）　年間購読8,000円（本体7,407円）

メンタルヘルス不調を予防する新しいアプローチ
確かめられた有効性。その具体的なすすめ方をわかりやすく紹介

メンタルヘルスに役立つ 職場ドック

吉川 徹・小木和孝 編

全頁カラー

1 メンタルヘルスに役立つ職場ドック
2 職場ドックが生まれた背景
3 職場ドックのすすめ方，計画から実施まで
4 職場ドックがとりあげる領域
5 職場ドックで利用されるツールとその使い方
6 職場ドックに利用する良好実践事例
7 職場ドックチェックシート各領域の解説
8 職場ドックをひろめるために
付録 職場ドックに用いるツール例
コラム 職場ドック事業の取り組み事例

好評 第4刷

〒169-0073
新宿区百人町 3-23-1
桜美林大学キャンパス内1F
TEL：03-6447-1435
FAX：03-6447-1436
HP：http://www.isl.or.jp/
公益財団法人
大原記念労働科学研究所

体裁 A 4 判並製 70 頁
定価 本体 1,200 円＋税
図書コード ISBN 978-4-89760-330-8 C 3047

これからの石綿対策

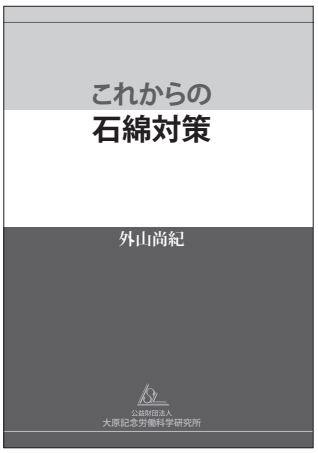
外山 尚紀

NPO 法人東京労働安全衛生センター／労働安全衛生コンサルタント／建築物石綿含有建材調査社協会副代表理事／大原記念労働科学研究所協力研究員

話題の最新刊！

最強の発がん物質＝石綿（アスベスト）の被害が止まらない。日本では石綿による疾患である中皮腫の死亡者は年間1、555人に達し、世界では毎年22万人の命を奪っている。石綿は建材に多用され、身の回りに大量に残されている。その対策は大丈夫なのか？

著者の20年の経験をもとに石綿のリスク、曝露の実態、石綿対策の課題を分析、検討し、これからの石綿対策を提案する。



本書の構成

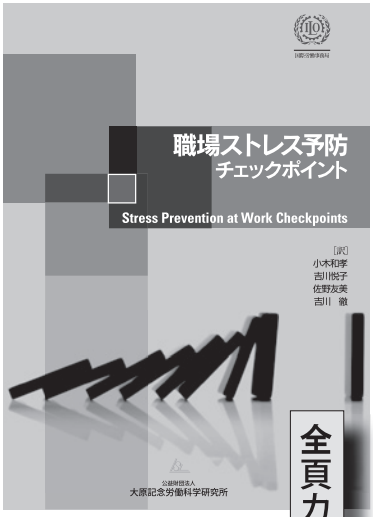
第1章 石綿と石綿のリスク
第2章 石綿曝露
第3章 石綿対策の現状と課題
第4章 震災と石綿
第5章 英国の石綿対策
第6章 これからの石綿対策

・関連図表・写真を多数収載

〒169-0073
新宿区百人町 3-23-1
桜美林大学キャンパス内 1F
TEL：03-6447-1435
FAX：03-6447-1436
公益財団法人
大原記念労働科学研究所

ISBN 978-4-89760-334-6 C 3047
体裁 A5 判 168 頁
定価 本体 1,000 円＋税

職場ストレス予防・ディーセントワークのための実際的な改善策



職場ストレス予防チェックポイント

話題の最新刊

50のチェックポイントにまとめて取り上げ、なぜ必要か、どのように実施するかを示し、追加のヒントと覚えておくポイントを挙げ、カラーで図解。

[刊] ILO
[訳] 小木和孝・吉川悦子・佐野友美・吉川徹

第1章 リーダーシップと公正さ
第2章 仕事の要求
第3章 職務の裁量度
第4章 社会的支援
第5章 作業場環境
第6章 ワークライフバランスと労働時間
第7章 職場における貢献の認識
第8章 攻撃的行為からの保護
第9章 雇用の保障
第10章 情報とコミュニケーション
参考資料
メンタルヘルスアクション チェックリスト

体裁　A4判並製 144頁
定価　本体1,200円＋税
図書コード ISBN 978-4-89760-333-9 C3047

〒169-0073
新宿区百人町3-23-1
桜美林大学キャンパス内1F
TEL：03-6447-1435
FAX：03-6447-1436
HP：http://www.isl.or.jp/
公益財団法人
大原記念労働科学研究所

人間工学チェックポイント

国際労働事務局（ILO）編集
国際人間工学会（IEA）協力
小木和孝 訳

第2版【カラー版】

安全、健康、作業条件改善のための実際的で実施しやすい対策

広範囲の現場状況について応用できる実際的で低コストの人間工学改善策を以下の9つの領域に分けて、132のチェックポイントで解説。

- **資材保管と取り扱い**
- **手もち工具**
- **機械の安全**
- **ワークステーションの設計**
- **照　明**
- **構内整備**
- **有害物質・有害要因対策**
- **福利厚生施設**
- **作業組織**

各チェックポイントは、挿し絵付きで、「なぜ」「リスク／症状」「どのように」「追加のヒント」「記憶ポイント」で構成。「このマニュアル利用のための提案」の節を設けて使い方をわかりやすく説明し、巻末に「現地に合ったトレーニング教材の具体例」を豊富に掲載。

体裁　A4判並製
総頁　338頁
定価　本体2,500円＋税

〒169-0073
新宿区百人町3-23-1
桜美林大学キャンパス内1F
TEL：03-6447-1435
FAX：03-6447-1436
HP：http://www.isl.or.jp/
公益財団法人
大原記念労働科学研究所

次号（9月号：７４巻９号）予定

特集

予防に生かす労働災害統計のあり方

巻頭言＜俯瞰＞求められる労働災害の変容分析と事例データベースの公開……永田久雄
労働災害統計の読み方と労働災害防止計画の課題……松田文子
経済情勢等が労働災害発生動向に及ぼす影響と防止対策への視点……池上　徹
労働市場構造を反映した労働災害統計と労災予防ワークルールの形成……石井まこと
ジェンダー配慮型労働災害統計データの整備――人間工学からの提言……榎原　毅
効果的な安全衛生施策と労働災害情報・統計データの課題……余村朋樹
産業別労働災害データと事故予防・防止活動における労働組合の役割……浜田紀子
自然災害現場，復旧・復興現場で働く地方公務員の公務災害統計と災害防止対策……細川　潔

共生のための思想と実践――大原總一郎の場合（二）……兼田麗子
産業保健の仕事に携わって・１４　最終回　これまでを振り返って……熊谷信二
凡夫の安全衛生記・３３　「海外で感じる」見聞きした安全衛生管理……福成雄三
労研アーカイブを読む・４５　リスクテイキング行動に関係する4つの因子……椎名和仁
Talk to Talk……肝付邦憲
口絵［見る活動］　ディーセント・ワークを目指す職場・９……亜細亜印刷株式会社

［ 編集雑記 ］

○２号にわたって，私たちに身近な施設である図書館を特集しました。公立図書館では，図書館職員の非正規化，司書・司書補のワーキングプア化が進み，その働き方改革が求められています。一方で，市民・地域とつながり合い，支え合いながら図書館サービスの向上をはかり，成果を上げている多くの図書館の取り組みが紹介されました。今号で取り上げた大学図書館，企業図書館など専門図書館も同様です。経費や人員の削減，事業規模の縮小を迫られていますが，情報提供サービスの質を落とさず向上させていくために，多くの図書館で，誰でも利用できるように利用者とつながり合い，支え合って，工夫した図書館活動がすすめられています。「図書館のちから」の源泉，それが持つ意味が改めて問われています。

○報告が遅くなりましたが，前田和男氏の「にっぽん仕事唄考」が７月号で最終回となりました。最初に扱った「炭鉱仕事が生んだ唄たち」が，西の筑豊・三池から，旧満州も挿入しながら関門海峡を越えて常磐炭鉱へ至り，さらに津軽海峡を渡って北の大地の産炭地へ，そして道東の果ての釧路炭田へと辿り着く，70回を数える連載の壮大な仕事になりました。各地での直接の取材，厖大な資料の収集・分析など，どのような分野・領域でも大きい評価を得るものです。予定されている単行本化を期待しています。　　（H）

［ 購読のご案内 ］

○本誌購読ご希望の方は
直接下記あてにご予約くださるのが便利です。

予　約
購読料　1ヵ年 12,000円（本体11,111円）

振　替　00100 - 8 - 131861

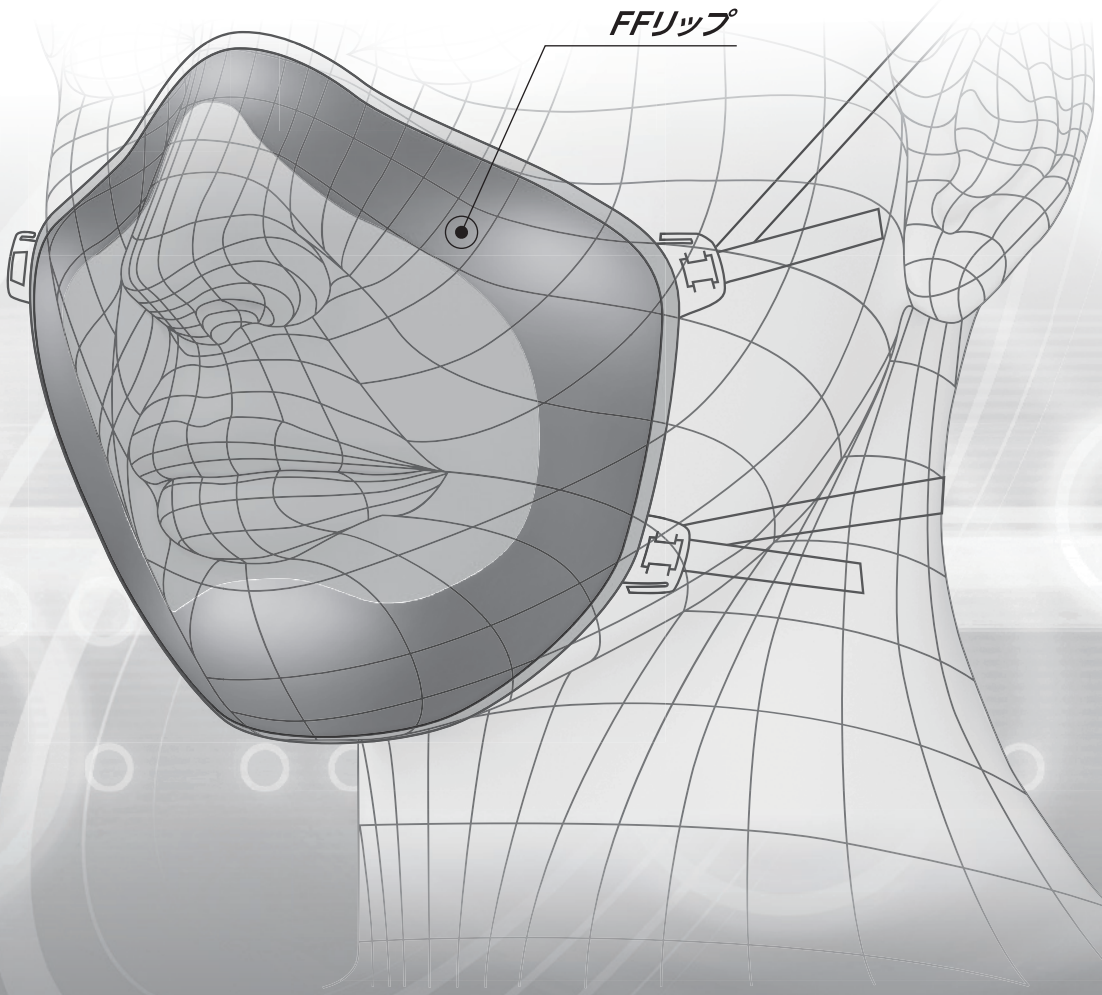
発行所　大原記念労働科学研究所
〒169 - 0073
東京都新宿区百人町3 - 23 - 1
桜美林大学キャンパス内1F
TEL. 03 - 6447 - 1330（代）
03 - 6447 - 1435
FAX. 03 - 6447 - 1436

労研ホームページ　http : //www.isl.or.jp/

労　働　の　科　学　©
第 74 巻　第 8 号　（ 8 月号）

定　価　1,200円　本体1,111円
（乱丁，落丁はお取替え致します。）

KOKEN



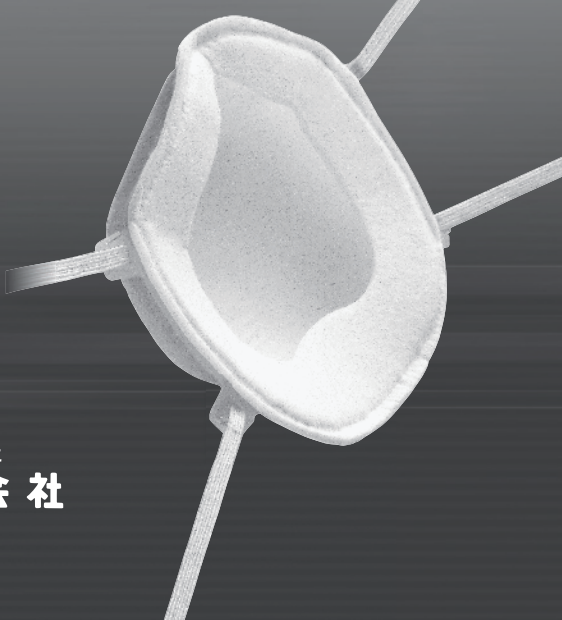
フィット性能で選ぶなら。

興研オリジナル

フィットを向上させる3次元構造のFFリップ

サカヰ式

ハイラック シリーズ



顔のカーブに合わせたしなやかなFFリップは、
密着性が高く、顔の動きに追随しやすい設計のため、
顔に自然になじんで「ぴったりフィット」を実現します。

クリーン、ヘルス、セーフティで社会に

興研株式会社

シゲマツ
創業1917年

有毒ガス用電動ファン付き呼吸用保護具
G-PAPR:Powered Air Purifying Respirator for Toxic Gases

呼吸に合わせて清浄空気
より安全に、より快適に。

コードレス!
断線の
心配なし。

フィルタ交換時期をお知らせ

安全性が高い
面体内圧を陽圧(正圧)に保持するため、粉じん等の吸入を防ぎ、安全性が高いです。

呼吸が楽

経済的

JIS T 8154:2018 適合品
区分 大風量形／PL3／IS級
防じん機能付き有機ガス用(L級)

Syx099PV3/OV-H

国家検定合格品
型式検定合格番号 第TP99号 区分 大風量形／PL3／S級

防護係数をスピーディーに表示!

**リアルタイムで
マスク内圧・漏れ率を確認**

POINT 1 **測定結果の記録が簡単!**

POINT 2 **JIS 5種類の動作を順に
音声アナウンス**

MNFTver.2(マスク内圧・フィッテングテスター)とは、顔とマスクの密着性の良否を確認するための装置です。漏れ率と同時にマスク内圧をリアルタイムに確認できます。

株式会社 重松製作所
SHIGEMATSU WORKS CO., LTD.
www.sts-japan.com

本　社
〒114-0024 東京都北区西ケ原1-26-1
TEL 03(6903)7525(代表)

二〇一九年八月一日発行（毎月一回一日発行）
編集人／原　知之
発行人／坂本恒夫
発行所／大原記念労働科学研究所（〒169-0073）東京都新宿区百人町三-二三-一　桜美林大学キャンパス内一階
定価一、二〇〇円
本体一、一一一円
（年ぎめ一二、〇〇〇円）

雑誌コード　09727-8
4910097270896
01111